

土居遺跡

一般国道179号公共交通安全施設整備に伴う発掘調査

2005

岡山県教育委員会

序

勝央町と美作市にまたがる間山^{はまねさん}、その山麓や周辺には、数多くの弥生時代の集落や大小さまざまな古墳が知られ、古代の官衙や寺院跡もあります。また、山中にも勝間山焼窯跡が各所に認められ、山頂には経塚や林野の安養寺会陽発祥の地と言われる間山高福寺跡も所在します。近年のこの周辺の発掘調査では、平地よりずいぶん高い位置に立地する弥生時代の集落が確認され、注目を集めています。

この間山からのびる丘陵裾部で歩道整備工事が計画され、その対象地は古墳時代から中世の土器が見つかった土居遺跡の一角にあたることが判明しました。そこで、この埋蔵文化財の保護・保存について、関係諸機関で協議を重ねてまいりましたが、最終的には、やむなく記録保存の措置を執ることになった次第です。

上居遺跡の調査結果から、これまでわかっていた古墳時代よりさらに古い弥生時代の遺構が見つかり、弥生時代にはすでに人々がこの周辺で生活していたことがわかりました。また、古墳時代の竪穴住居では鉄滓を確認し、この地域の特徴や、今後の歴史研究を進めていく上での新たな資料を追加することができました。

これらの調査成果をまとめた本書が、埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、教育・学術のために広く活用されるよう願うところであります。

また、発掘調査ならびに報告書作成にあたりましては、岡山県勝英地方振興局（現美作県民局勝英支局）をはじめとする関係各位、ならびに地元の

げます。

平成17年11月

岡山県古代吉備文化財センター

所長 松本和男

例　　言

- 1 本書は、岡山県教育委員会が一般国道179号公共交通安全施設整備工事に伴い、岡山県勝英地方振興局（現美作県民局勝英支局）の依頼を受け、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した土居遺跡の調査報告書である。
- 2 土居遺跡は、勝田郡勝央町黒土378-1他に所在する。
- 3 確認調査は平成15年度に勝央町教育委員会技師岡正雄が、全面調査は平成16年度に二宮治夫・重根弘和が担当して実施した。調査面積は、確認調査が28.8m²、全面調査が800m²である。
- 4 本書の作成は、平成16年度に岡山県古代吉備文化財センターにおいて重根が担当した。
- 5 鉄滓の鑑定については大澤正己氏（㈱九州テクノリサーチ・TACセンター）に依頼し、有益な教示を得るとともに、成果については報告文をいただいた。
- 6 遺物写真の撮影については江尻泰幸氏の協力と援助を得た。
- 7 本書に関係する遺物・実測図・写真・マイクロフィルム等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）に保管している。

凡　例

- 1 本書に用いた高度値は海拔高であり、方位は平面直角座標第V系の座標北である。また、遺構配置図等の座標値および抄録に記載した経緯度は、世界測地系に準拠している。
- 2 本書記載の遺構・遺物の図には個別にその縮尺率を記しているが、基本的には次のとおり統一している。

竪穴住居：1/60　　掘立柱建物：1/60　　土壇：1/30

土器・陶磁器・瓦：1/4　　土製品・金属製品：1/3

- 3 遺構配置図等において遺構番号を付す場合、次の略号を使用している。

竪穴住居：住　　掘立柱建物：建　　土壇：土

- 4 遺物番号は土器・土製品と金属製品に分け、金属製品については次のアルファベットを番号の前に付す。

金属製品：M

- 5 揭載した土器のうち中軸線の両側に白抜きのあるものは、小片のため径が不確かなものである。

- 6 遺構の堆積上層・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠している。

- 7 第2図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「津山東」を複製・加筆したものである。

- 8 本書における時期区分は一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために文化史区分と世紀を併用している。

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯と調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査および報告書作成の経過	2
第3節 調査および報告書作成の体制	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の概要	5
第1節 調査区の概要	5
第2節 遺構・遺物	5
1 掘立柱建物・竪穴住居	9
2 土壙	11
3 柱穴列・ピット	17
4 遺構に伴わない遺物	19
第3節 小結	
観察表	23
付載	27
図版	
抄録	

図 目 次

第1図 確認調査トレンド位置 (1/2,000) ······	1
第2図 旗海の位置 (1/3,000,000)	
と周辺の主要施設 (1/50,000) ······	4
第3図 清音区位置 (1/1,000) ······	5
第4図 運構配置 (1/300) ······	6
第5図 1～3区上層断面 (1/100) ······	7
第6図 3～4・5区上層断面 (1/100) ······	8
第7図 柱立柱建物 1 (1/60)・出土遺物 (1/4) ······	9
第8図 穹穴住居 1 (1/60) ······	9
第9図 穹穴住居 2 (1/60)・被焼面 (1/30)	
・土燃 (1/30)・出土遺物 (1/3・1/4) ······	10
第10図 土壌 1～3 (1/30)・出土遺物 (1/4) ······	11
第11図 土壌 4～11 (1/30)・川土遺物 (1/4) ······	12
第12図 土壌 12～17 (1/30)・山土遺物 (1/4) ······	13
第13図 土壌 18～20 (1/30)・山土遺物 (1/4・1/3) ······	14
第14図 上層 21～24 (1/30)・山土遺物 (1/4・1/3) ······	15
第15図 土壌 25～28 (1/30)・山土遺物 (1/4) ······	16
第16図 穹穴列 1～4 (1/30)・P 1 (1/20)	
・出土遺物 (1/4) ······	17
第17図 ピット出土遺物 (1/4) ······	18
第18図 運構に伴わない遺物① (1/4・1/3) ······	19
第19図 運構に伴わない遺物② (1/4・1/3) ······	20
第20図 運構に伴わない遺物③ (1/4) ······	21
第21図 運構配置 (1/1,200) ······	22

表 目 次

第1表 運構一覧表 ······	23
第2表 全層断面表 ······	23
第3表 上器窓表 ······	24

図版目次

図版 1	調査区全景 (西から)	-2	4区 (北西から)
図版 2-1	1区 (北西から)	-3	柱穴列 4 (南東から)
-2	柱立柱建物 1 (東から)	-4	上層 2・23 (東から)
-3	土壌 2 (北西から)		
-4	P 1 (東から)		
図版 3-1	2区東半 (北西から)		
2	穹穴住居 1 (南東から)		
3	穹穴住居 2 (北西から)		
図版 4	3区 (北西から)		
		図版 5-1	5区 (北西から)
		-2	5区 ピット (東から)
		-3	土壌 25 (北西から)
		図版 6	川土遺物 ①
		図版 7	山土遺物 ②
		図版 8	山土遺物 ③

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

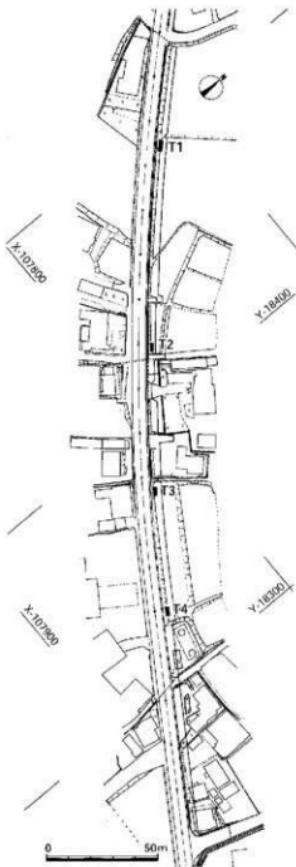
第1節 調査に至る経緯

平成15年5月、勝央町建設課から勝央町教育委員会（以下、町教委）に対して、勝央町黒土地内で岡山県勝央地域振興局（以下、振興局）が計画している歩道整備工事予定地内の埋蔵文化財の有無についての照会がなされた。予定地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地土居遺跡に該当することから、町教委は遺跡の取り扱いについて岡山県教育庁文化財課（以下、文化財課）と協議を行うよう指導した。これを受け、振興局建設部と文化財課は協議を行い、確認調査を実施し、その結果をもとに別途協議することで合意した。同年8月に町教委を主体として確認調査を実施した。

確認調査の結果、多数の遺構と遺物が確認でき、古墳時代から中世の集落遺跡が地形に沿つて面的に広がる可能性が高いことがわかった。

この結果に基づき、文化財課は全面調査の必要があると判断し、振興局、町教委、文化財課、岡山県古代吉備文化財センター（以下、センター）で協議を行った。協議の結果、住宅前の常時通路として利用する範囲については文化財課が平成16年8月に立会調査、そのほかの地点についてはセンターが平成16年10月から12月に発掘調査、平成17年1月から3月に報告書の作成を行うこととなった。

（註）本節は、「一般国道179号（勝山郡勝央町黒土地内）公共特定交通安全施設整備工事に伴う埋蔵文化財確認実績報告書」（勝央町教育委員会 2003）をもとに書き改めたものである。



第1図 確認調査トレンチ位置 (1/2,000)

第2節 調査および報告書作成の経過

全面調査は平成16年10月から12月に、センター職員2名が担当し実施した。表上、造成土を重機で除去し、その後人力で清掃、検出、造構調査を行った。

報告書作成は調査に引き続き平成17年1月から3月に、センター職員1名が担当し実施した。

第3節 調査および報告書作成の体制

平成16年度		参考	松本 和男
岡山県教育委員会		参考	伊藤 児
教育長	宮野 正司	〈総務課〉	
岡山県教育庁		総括副参事(総務班長)	笏本 弘忠
教育次長	笠瀬 司	主任	小坂 文男
文化財課		主任	小川 紀久
課長	芦田 和正	〈調査第三課〉	
参考	田村 啓介	課長	柳瀬 昭彦
総括副参事(埋蔵文化財班長)	平井 泰男	総括副参事(第一班長)	山野 康平
主任	小林 利時	副参事	二宮 治夫
主事	秋山 良樹		(調査担当)
岡山県古代吉備文化財センター		主事	重根 弘和
所長	正岡 隆夫		(調査・報告書担当)
次長	内田 猛		

第4節 曰誌抄

平成16年(2004年)	10月1日～	発掘調査準備開始。
	10月12日～	発掘用資材搬入。発掘調査開始。
	10月15日～	基礎杭設置。
	12月24日～	発掘用資材搬出。発掘調査終了。
平成17年(2005年)	1月4日～	報告書作成開始。
	3月31日～	報告書作成終了。

第2章 遺跡の位置と環境

土居遺跡が所在する勝山郡勝央町は、中岡山脈と吉備高原に挟まれた県北最大である津山盆地の東部に位置する。町の北西部には、那岐山塊南麓の日本原台地やそこから南方へ延びる幾筋もの丘陵地帯の先端部が及び、町の南半部は第二紀層や古・中生層の丘陵が占める。その中を、那岐山塊の滝山に疊を発する滝川と後山山塊に源を発する梶並川の両者がともに南流し、標高260mの間山の北側に美野、南西側に勝門川、南側に豈國の盆地状の谷底平野が発達する。

周辺における最古の遺跡は、今のところ縄文時代早期の楕円押型文土器が採集された金鶴塚遺跡である。また、縄文時代と思われる落としひが虫尾遺跡・大年古墳群の下層で検出されている。

弥生時代前期の遺跡は今のところ見つかっていないが、中・後期になると遺跡数が急増する。美野平野では、北緯の低丘陵上に弥平治遺跡をはじめ多数の集落・散在地が所在し、南緯の間山北麓にも能部遺跡・清賀遺跡などが点在する。勝間田平野では、北緯の間山南麓に小中遺跡などの大規模な集落が立地し、南緯の低丘陵上には国司尾・大神遺跡などがある。豈國平野の同緯にも北山古墳群下層や鎌倉山遺跡・丸山遺跡が位置し、各平野ごとに周囲の低丘陵上に集落が広まれている状況がある。一方、間山では、山頂に田井ちご池遺跡や、わずかに下った丘陵高所に田井たれをす遺跡・岡東高塚遺跡が調査され、山上の集落として注目される。また、念佛塚遺跡で袈裟摩文銅鏡が出土している。

古墳時代になると、多くの前方後円・後方墳が登場する。前期の古墳は、美野平野周辺では横刀寺山・美野中塚・西宮神社裏・田井高塚・美野高塚古墳の前方後方墳が知られる。また、勝間田平野を見下ろす間山南麓には琴平山・巖塚・岡高塚古墳などが、豈國平野を望む丘陵上には樋原寺山古墳や金燒山1号墳が古地する。中期の古墳は、鉄製農耕具や竖築を副葬していた落山古墳がある。四司尾・天神遺跡では初期須恵器を副葬した上墳墓が検出され、渡来文化に関わりを持つ被葬者像が浮かび上がる。後期には、今まで古墳の築かれなかった丘陵部や谷筋の奥にも古墳群や郡集墳が出現する。一方、この時代の集落では、勝央中核工芸町内遺跡第Ⅶ調査区の古墳時代初頭の集落・弥平治遺跡の6世紀初頭の集落などがあり、そのほか、鉄鋤や編の羽口が出土した7世紀の鍛冶集落福吉丸山遺跡や堅穴住居の埋入中から多量の鉄滓・炉壁片が出土した上相遺跡など、製鉄関連の遺跡も多い。

古代は、勝間田平野の東部に勝田郡衙跡遺跡に比定されている平遺跡・勝間田遺跡が所在し、小中遺跡には奈良時代の倉庫と推定される掘立柱建物群がある。また、豈國平野北東部には戸瀬時代に樋原庵寺が、間山山頂には古代に間山高福寺が建立されている。さらに勝間田平野近辺では、須恵器窯跡や横口付炭窯等も知られる。この時期の遺物は、豈國で発見されたと伝えられる人面墨書き土師器や、それに宇津木本谷須恵器窯跡から出土した陶馬などが留意される。

古代末から中世にかけては、勝間田平野の南北両側の山中に中心にして、戸岩窯跡や進上谷窯跡などの約50基の勝間田焼窯跡が存在し、県南の備前焼や龜山焼と並ぶ中世須恵器の生産地となっている。また、高福寺の所在する間山山頂周辺は、瓦経を納めた経塔が知られ、鳥取県倉吉市大日寺瓦経との関連から、11世紀末頃に造られたと考えられている。一方、美野平野では広く条單遺構が遺存し、部分的な調査で条理地割りが中世まで遡ることが確認されている。

第2章は、物部茂樹編「田井ちご池遺跡」「県調査報告」185を一部改変して引用した。



○：散布地

■・▲・●：古墳

▲：窯

卍：寺院

1 土見遺跡	12 田井らご池遺跡	23 岡高塚古墳	33 福吉山山遺跡
2 会鶴塚遺跡	13 田井たれをす遺跡	24 よつみ川2号墳	34 上相遺跡
3 貞尾遺跡	14 回東高塚古墳	25 上相中塚5号墳	35 平道跡
4 大牛古墳群	15 念仏家遺跡	26 横原寺山古墳	36 蒜問山山遺跡
5 弥生治江跡	16 植月寺山古墳	27 金燒山1号墳	37 横原庵寺
6 能郷道路	17 美野中塚古墳	28 上経塚古墳群	38 間山高福寺跡
7 清辺道路	18 西宮神社裏山古墳	29 洛山古墳	39 宇津木谷塚跡
8 小中道路	19 田井高塚古墳	30 国司尾遺跡	40 人吉塚跡
9 北山山遺跡	20 美野高塚古墳	31 人神遺跡	41 進上谷塚跡
10 錦倉山遺跡	21 芬平山古墳	32 脊央中核工業用地内	42 美野条里遺構
11 丸山遺跡	22 須坂山古墳	遺跡第Ⅲ調査区	

第2図 遺跡の位置（1/3,000,000）と周辺の主要遺跡（1/50,000）

第3章 調査の概要

第1節 調査区の概要

調査地は間山からのびる南向き丘陵の裾部にある。この周辺は、狭いながらも平坦な土地が広がり、そのすぐ南には滝川が東西方向に流れる。

確認済みの結果を受け、調査対象地を6区分して調査を行った。調査区は幅4mと狭く、全体が把握できた遺構は皆無である。ただし、狭くはあっても長く調査範囲を設けることができたため、周辺の地形や、遺構密度の変化を把握することができた。

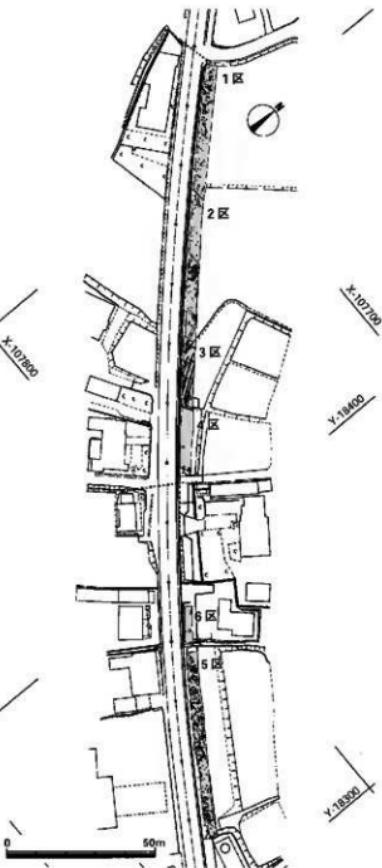
1区ではビットを多数検出したが、掘立柱建物としてまとめることができたのは1棟である。時期は古墳時代後期である。ここでは、検出中に勝間田焼多数を確認した。

2区では古墳時代後期の竪穴住居を2軒確認した。そのうち、1軒の床面において鉄滓を検出した。鉄滓は製錬滓であった。1区でも鉄滓は多數見つかっており、この近隣で製錬が行われていた可能性がある。

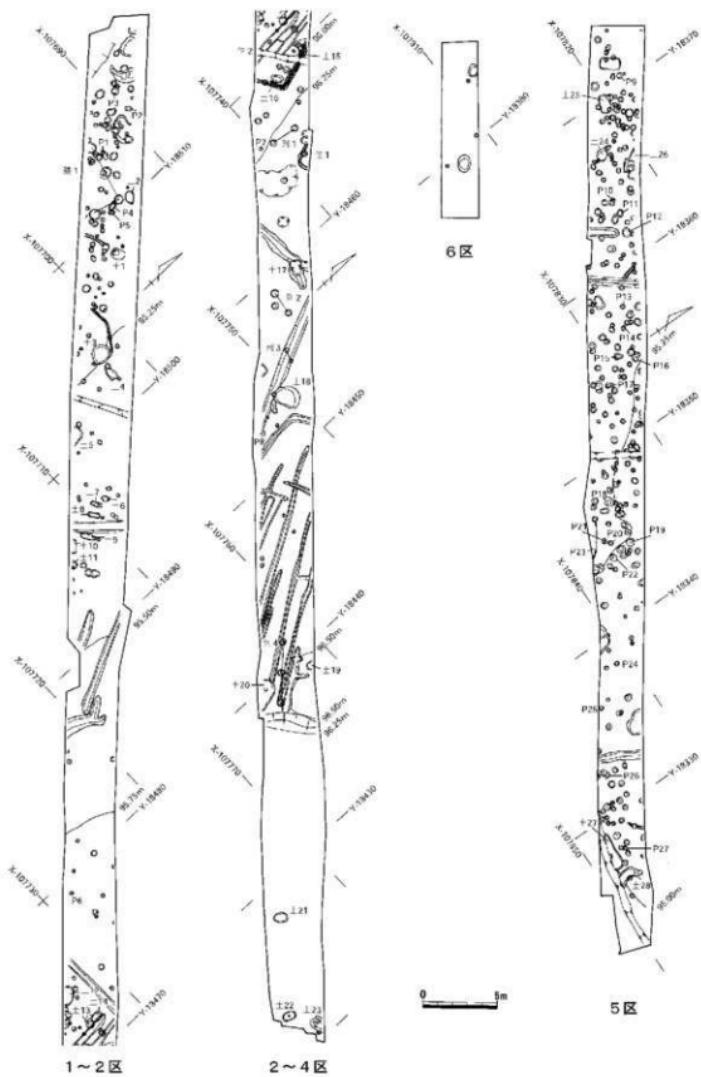
3区と4区は他の調査区と比べて遺構密度が低く、わずかなビットと土壤散在が確認できただけである。3区周辺が、調査区内では最も高いところとなり、ここから東西にむかって下がる地形となる。そのため、この地区的遺構は、水田整備時に削平を受けたものと想定する。

5区は最も遺構密度が高く、弥生時代から中世までのビットを多數検出したが、建物としてまとめるることはできなかった。

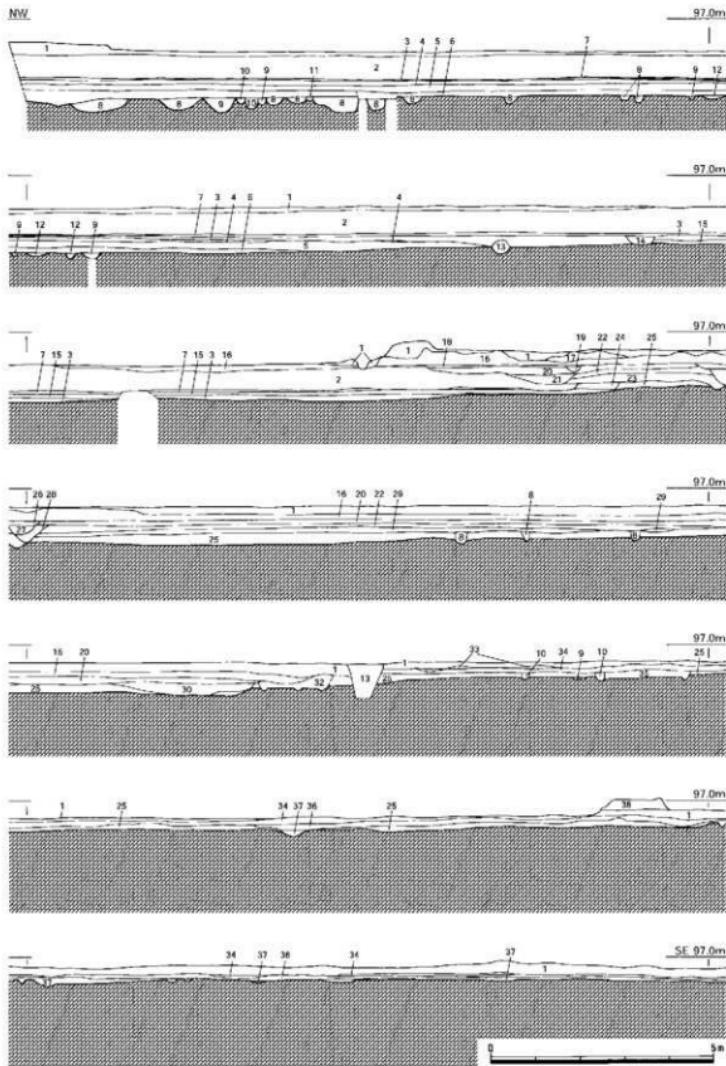
6区では木調査の前に立会調査を行い、ビットを検出した。



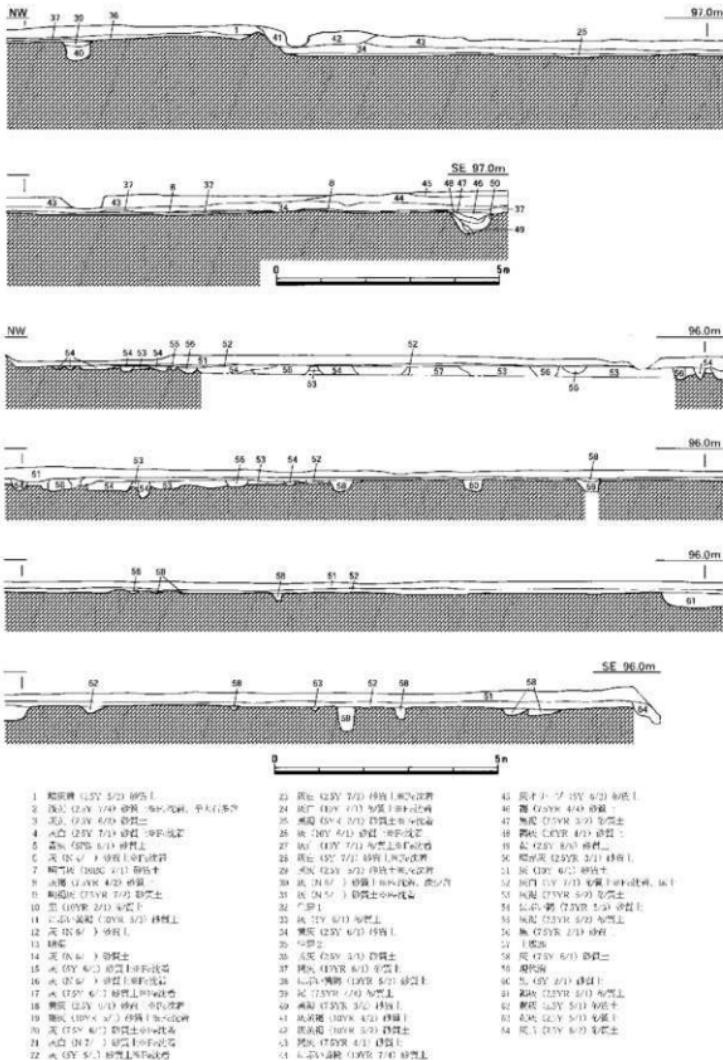
第3図 調査区位置 (1/1,500)



第4図 遺構配置(1/300)



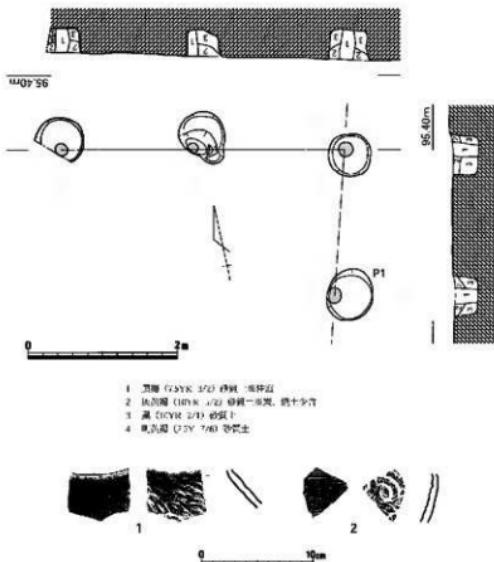
第5図 1~3区 土層断面 (1/100)



第6図 3～4・5区 土層断面 (1/100)

第2節 遺構・遺物

1 挖立柱建物・竪穴住居



第7図 挖立柱建物1 (1/60)・出土遺物 (1/4)

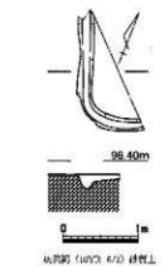
掘立柱建物1 (第7図、図版2)

1区の北西で検出した。酒井町区内では柱穴が4個見つかった。いずれの柱穴も平面形は円形で、土層断面では柱痕が観察できた。その配置から、主軸はほぼ南北方向を指し、さらに南へのびると想定するが、規模は不明である。柱穴間の距離は175~200cmであった。

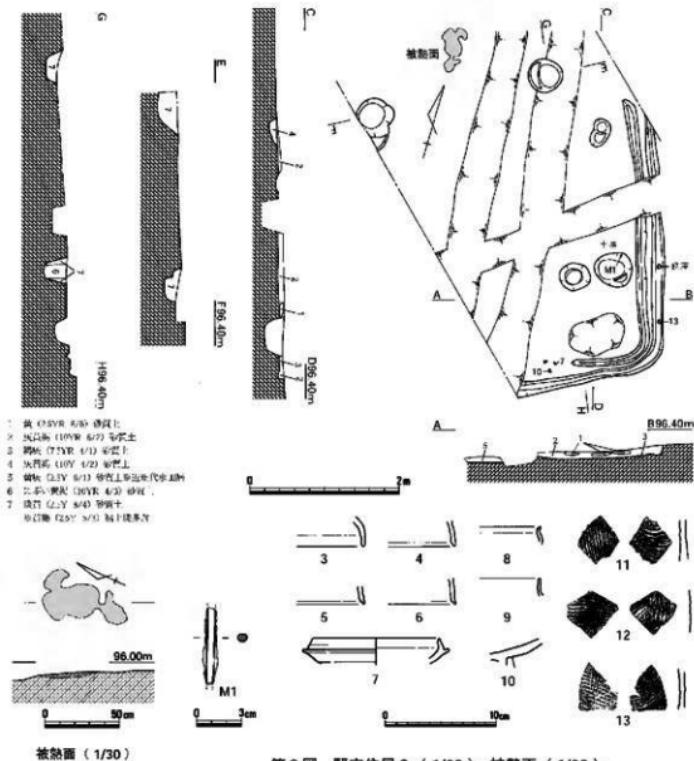
1・2はP1の埋土掘り下げ時に検出した。ともに須恵器底の破片であり、内面に同心円状の工具痕が明瞭に残る。そこから、陶邑TK43型式以降、6世紀後半以後のものであると判断した。

竪穴住居1 (第8図、図版3)

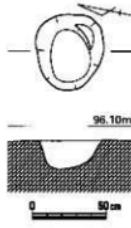
2区中央やや南東よりの地点で検出した。壁体溝がわずかに確認できた。出土遺物は無いが、掘立柱建物1や竪穴住居2と同時期と考える。



第8図 竪穴住居1 (1/60)



第9図 穴住居2(1/60)・被熟面(1/30)・
土壤(1/30)・出土遺物(1/3・1/4)



土壤 (1/30)

豎穴住居2（第9図、図版3）

2区の中央付近で検出した。残る壁体溝から、本米の平面形は一辺5mの方形であったと想定する。また、柱穴は調査区外にもう1個存在し、4本の柱で上屋を支えていたと推察する。床面の北端中央付近では、被熱面を検出した。おそらく、この部分にカマドをつくりつけていたものと考える。P1のすぐ東で、長軸50cmを測る相引形の土壙を確認した。川途は不明である。

3~6・8・9・11~13は埋土中で、7・10・M1は床面で、13は壁体溝内で検出した。床面で検出した7が陶邑TK209型式と類似することから、この遺構の時期は6世紀末から7世紀初頭であると判断した。なお、壁体溝で見つかった鉄滓は、鑑定の結果製錬滓であるとわかった。

2 土壙

土壙 1 (第10図)

1区の中央やや北西寄り、掘立柱建物1の東2mの地点で検出した。須恵器14は遺構検出時に見つかったものである。

土壙 2 (第10図、図版2)

1区の北西、掘立柱建物1のすぐ北で検出した。埋土上層には拳から人頭大の石を多く含む。18・19は1層で、15・17は2層で確認した。16は陶缶TK209型式に類似する。

土壙 3 (第10図)

1区の中央付近で検出した。出土遺物は皆無であり、埋土にしまりがないことから、近現代のものである可能性が高い。

土壙 4 (第11図)

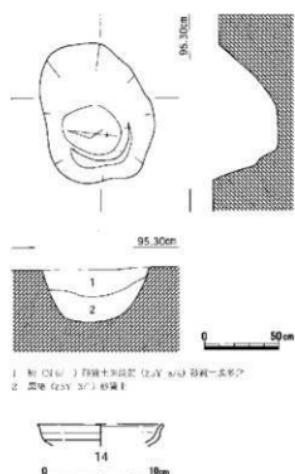
1区のほぼ中央で検出した。出土遺物は皆無である。

土壙 5 (第11図)

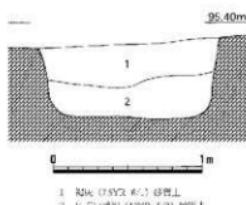
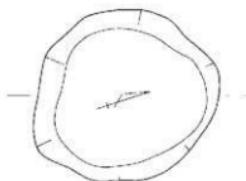
1区の中央やや南東で検出した。埋土中に拳大の石を含む。

土壙 6 (第11図)

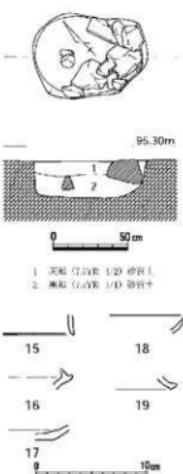
1区南東で検出した。出土遺物は無い。



土壙 1

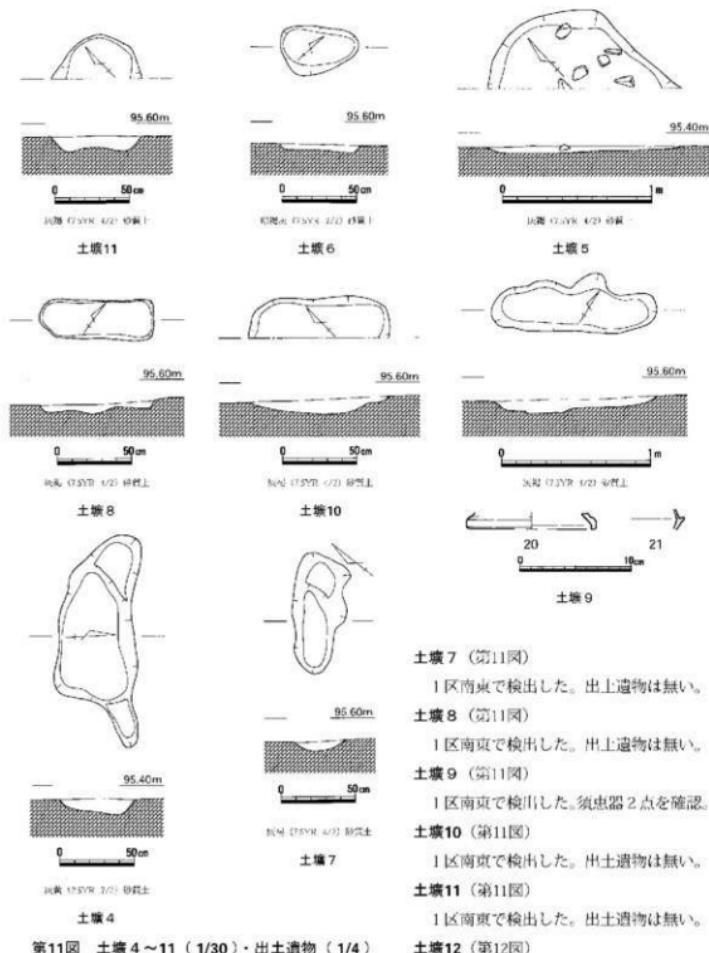


土壙 3



土壙 2

第10図 土壙 1～3 (1/30)・出土遺物 (1/4)



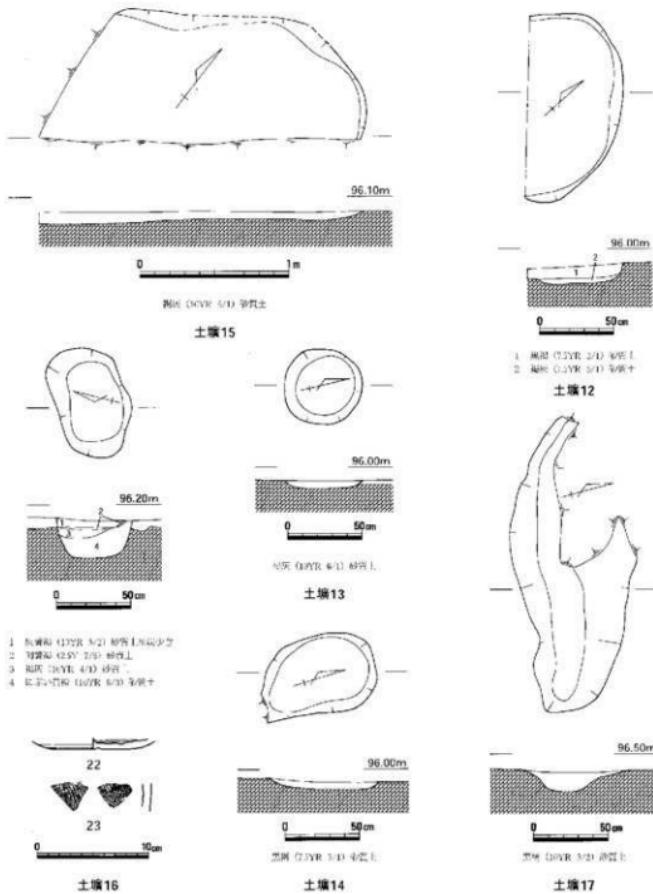
第11図 土壠 4～11 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壠13 (第12図)

2区の中央付近で検山した。竪穴住居2北端の一部を切る。出土遺物は皆無である。

土壠14 (第12図)

2区の中央付近で検山した。土壠13と接し、竪穴住居2北端の一部を切る。出土遺物は無い。



第12図 土壌12～17 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壌15 (第12図)

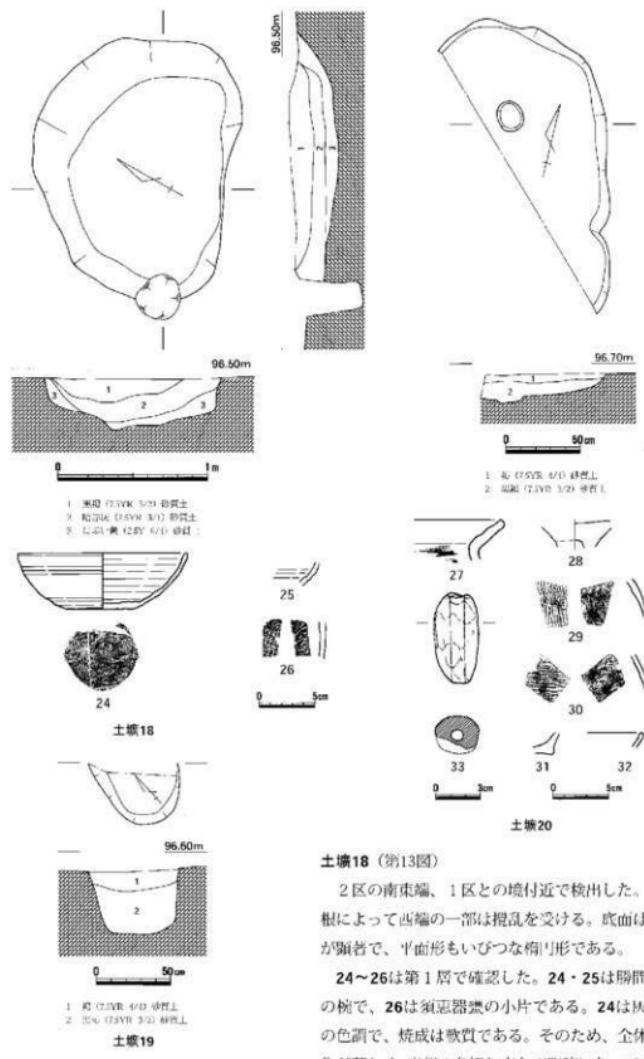
2区の中央付近で検出した。竪穴住居2北半を切る浅いたわみ状の土壌である。出土遺物は無い。

土壌16 (第12図)

2区の中央付近で検出した。竪穴住居2北西隅を切る。須恵器22・23は第3層で確認した。

土壌17 (第12図)

2区の南東で検出した。木の根によって東半分は攪乱を受ける。図化できる出土遺物は無い。

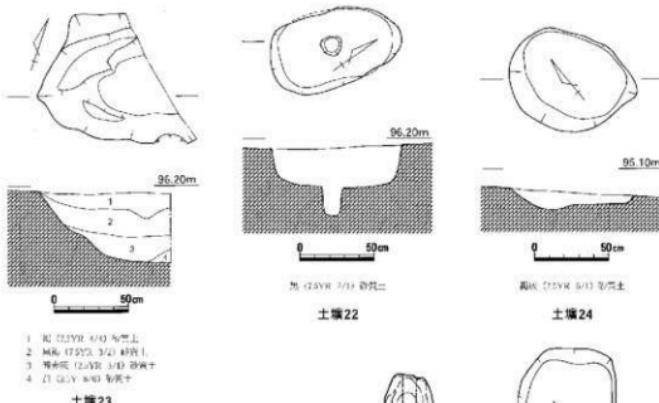


第13図 土壌18~20 (1/30)・
出土遺物 (1/4・1/3)

土壌18 (第13図)

2区の南東端、1区との境付近で検出した。木の根によって凸端の一部は攢乱を受ける。底面は凹凸が顕著で、平面形もいびつな桶円形である。

24~26は第1層で確認した。24・25は勝間田焼の碗で、26は須恵器縁の小片である。24は灰白色の色調で、焼成は軟質である。そのため、全体に感化が著しく、底部の糸切り痕も不明瞭になっている。12世紀後半、平安時代末頃のものと考える。



土壤19 (第13回)

2区の南東端近くで検出した。北半は調査区外となるため、平面形は不明であるが、おそらく長楕円形であったと考る。出土遺物は無い。

土壤20 (第13回)

2区の南東端、1区との調査区境で検出した。調査時には把握できなかったが、2基以上の土壤が重なってい可能性もある。

28・33は1層、30・31は2層、32は底面で確認した。それぞれ時期が異なる遺物が混在するが、2層と底面で確認した上器は勝間田焼で、
2層と底面で確認した下器は土器である。

土壤31 (2014) 31

1区の中央、やや南東寄りの地点で検出した。平面形は不規長円形で、浅いたわみ状の土壤である。この土壤を検出し、切り出せば十数キロメートル走るのを見る。

34～36はいずれも底面で検出した。須山呂杯鏡35・36は古墳時代後期のものである。

土壤32(第14回 脱版)

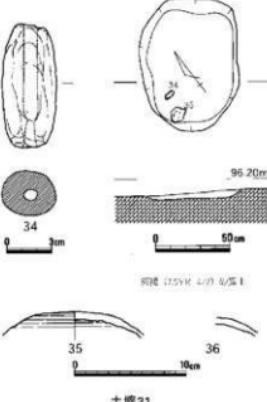
1区の南東端近くで検山した。底面中央部分で軋板の痕跡が確認できたことから、狩猟用の落とし穴であった可能性もある。上器等の出土遺物は確認できなかった。

土壤23(第14圖 図版4)

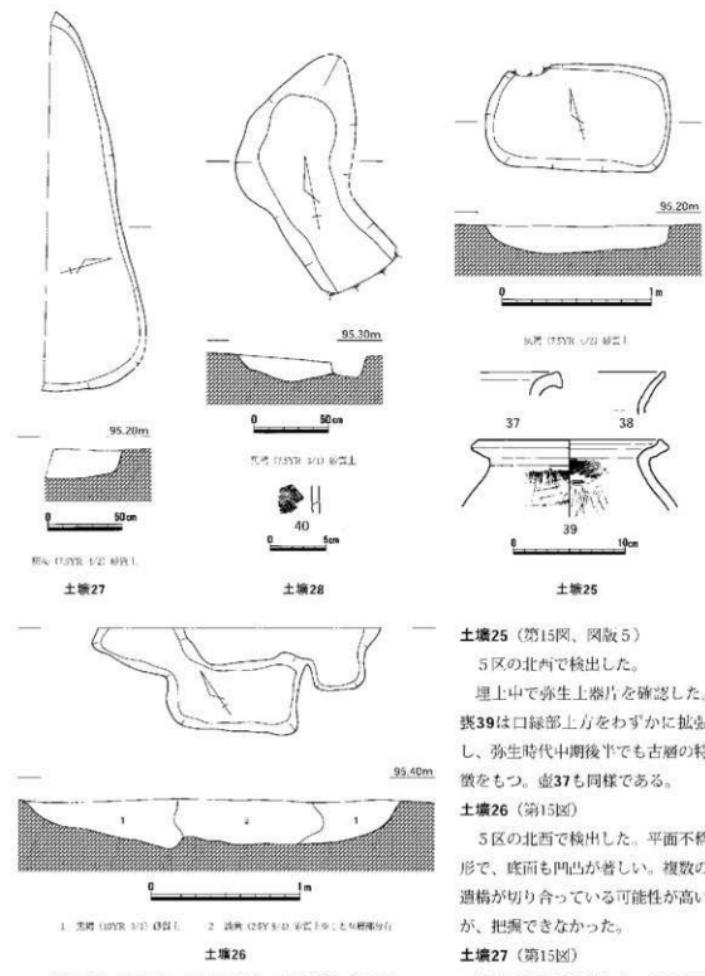
1区の南東端近く、土壤22の東1mの場所で検出した。北半は調査区外となる。出土遺物は無し。

十二課24 (第14回)

5区の北西で検出川を、底面凹凸が著しく、浅い不整棱円形の土壠である。川土遺物は無い。



第14圖 土壤21~24(1/30): 出土遺物(1/4:1/3)



第15図 土壌25~28 (1/30)・出土遺物 (1/4)

土壌28 (第15図)

5区の南東、土壌27のすぐ東にて検出した。南半は現代の溝に切られ、平面形は不整形である。埋土中で弥生土器細片を確認した。40は櫛描き波状文が観察でき、壺の一部であると考える。

土壌25 (第15図、図版5)

5区の北西で検出した。埋土中で弥生土器片を確認した。表39は口縁部上方をわずかに拡張し、弥生時代中期後半でも古唇の特徴をもつ。壺37も同様である。

土壌26 (第15図)

5区の北西で検出した。平面不整形で、底面も凹凸が著しい。複数の遺構が切り合っている可能性が高いが、把頭できなかった。

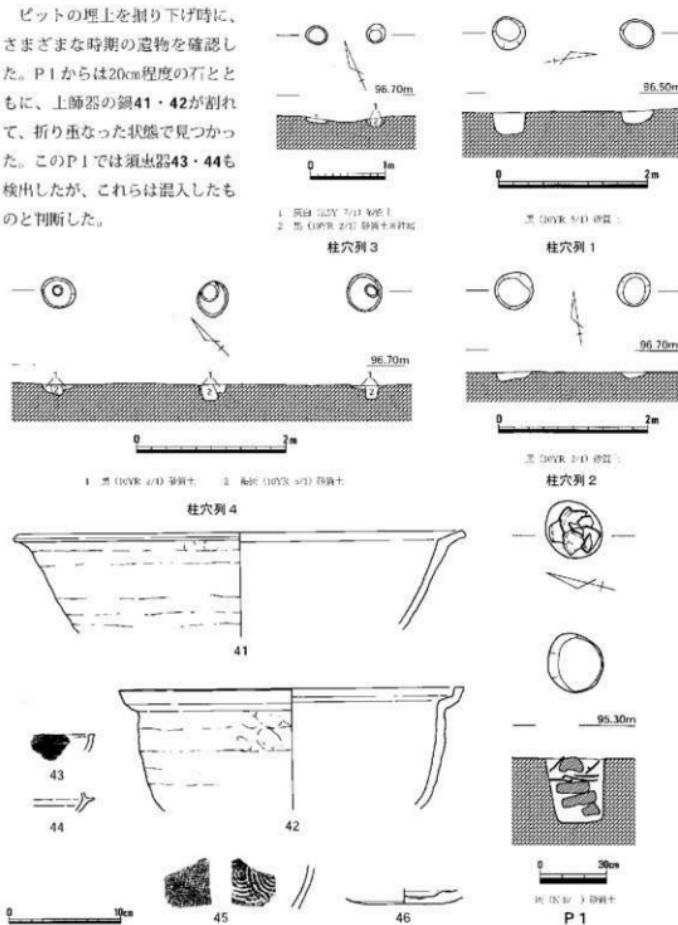
土壌27 (第15図)

5区の南東で検出した。南半を現代の溝に切られる。遺物は無い。

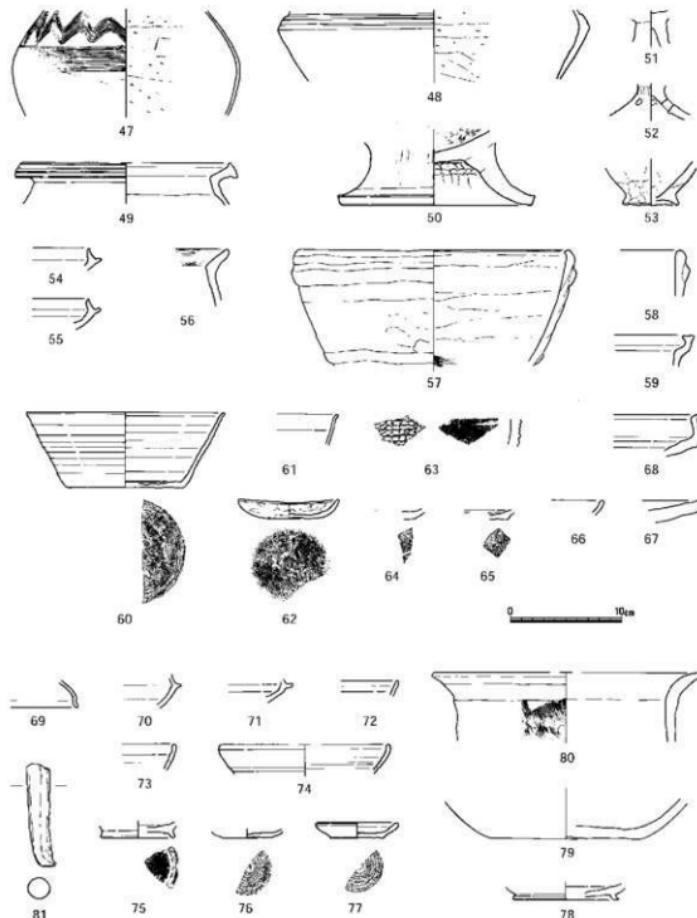
3 柱穴列・ピット

多数のピットを各調査区で確認したが、掘立柱建物としてまとめることができたのは、掘立柱建物1のみである。この他、柱穴列として4つ例を挙げているが、これらは建物の一部であるのか、柵列なのか、用途は不明である。

ピットの埋土を掘り下げ時に、さまざまな時期の遺物を確認した。P1からは20cm程度の石とともに、上層器の銅41・42が割れて、折り重なった状態で見つかった。このP1では須恵器43・44も検出したが、これらは混入したものと判断した。



第16図 柱穴列1～4（1/30）・P1（1/20）・出土遺物（1/4）

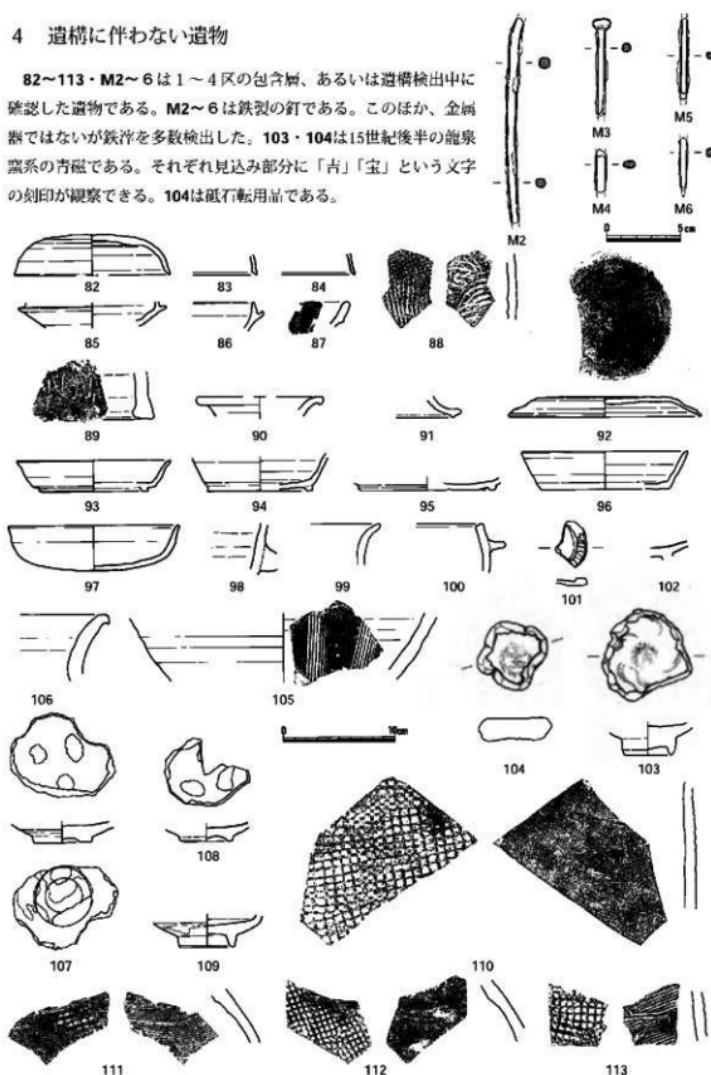


第17図 ピット出土遺物（1/4）

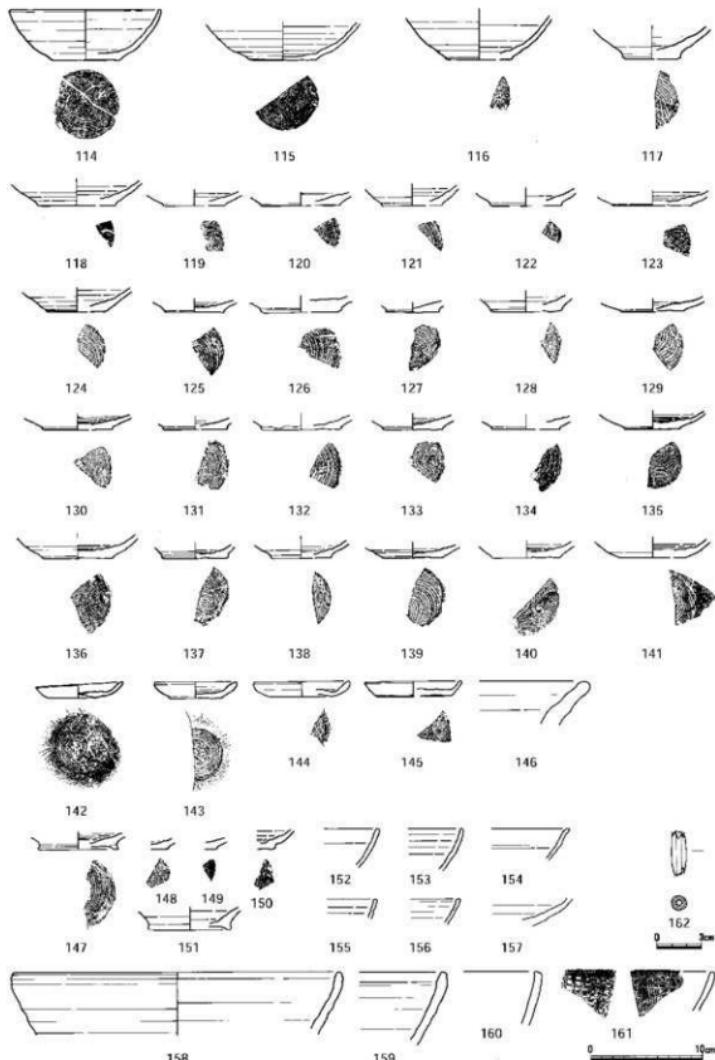
47~68は5区で、69~81は1~4区で検出した遺物である。どちらの調査区においても古墳時代後期と古代から中世初期の土器が確認できた。このほか、5区では図化していない細片も含めて弥生土器が多数見つかったが、他の調査区ではほとんど見かけることがなかった。また、1区では他の調査区に比べて、勝間田焼の破片が多い印象を受けた。

4 遺構に伴わない遺物

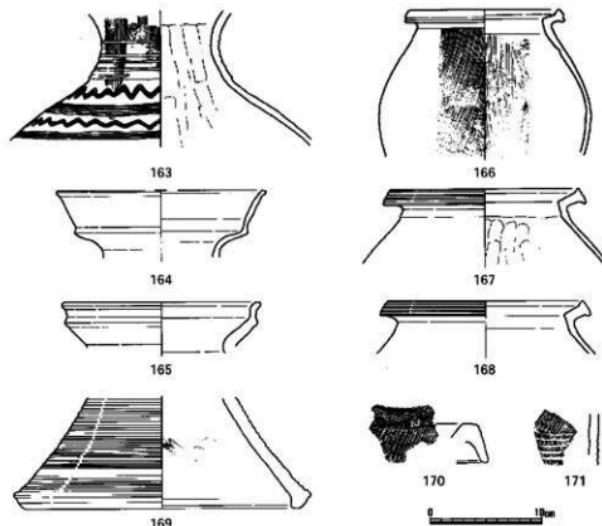
82~113・M2~6は1~4区の包含層、あるいは遺構検出中に確認した遺物である。M2~6は鉄製の釘である。このほか、金属器ではないが鉄滓を多数検出した。103・104は15世紀後半の龍泉窯系の青磁である。それぞれ見込み部分に「吉」「宝」という文字の刻印が観察できる。104は砥石転用品である。



第18図 遺構に伴わない遺物① (1/4・1/3)

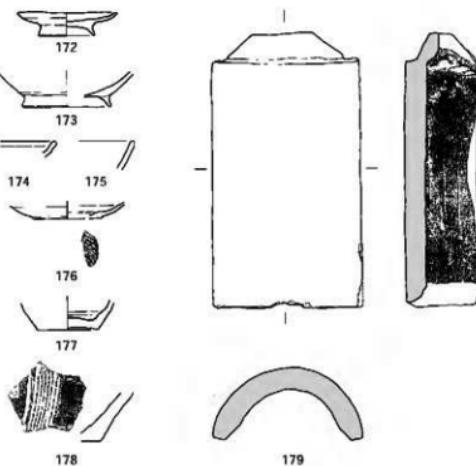


第19図 遺構に伴わない遺物② (1/4・1/3)



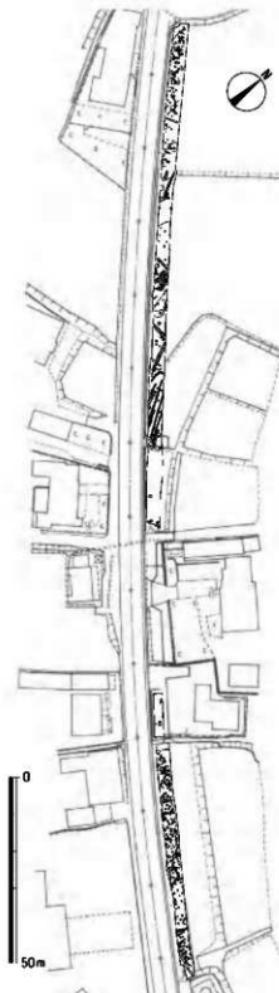
114~161は1~4区で検出した勝間田焼である。なかでも、1区で多く確認した。椀は底部外間にわずかに段をもつものが多く、口縁部が外面に強く反る例はない。また、全体像が復元できる資料は、浅い白象をうけることから、12世紀後半の資料が中心と考える。161は外間に格子口のタタキ工具痕が残る鉢である。内面には櫛口が観察できる。

163~179は5区で検出した遺物である。弥生土器163~171は中期後半でも古層に属す。瓦179は現代暗渠に再利用していた。



第20図 遺構に伴わない遺物③ (1/4)

第3節 小 結



第21図 遺構配置 (1/1,200)

今回の調査では、掘立柱建物を1棟、竪穴住居を2軒、土壙を28基検出した。このほか、ピットも多数確認したが、建物としてまとめることができなかった。

5区で検出した上塙25と上塙28は弥生時代中期後半の遺物が伴う。このほかにも、5区ではピットや包含層で同様の時期の上器を確認したが、他の地区では見つからなかった。調査地周辺は、すくなくとも弥生時代からは居住域として利用されているが、それほど多くの人が生活をしていたわけではないようだ。

掘立柱建物1と竪穴住居2は、ともなう須忠器から古墳時代後期のものであると判断した。出土遺物は無いが、竪穴住居1も同時期に属すると考える。竪穴住居2の壁体溝から鉄滓が見つかり、この鉄滓は製錬滓であった。掘立柱建物1周辺でも多数の鉄滓が見つかっており、おそらく、この時期に近隣で鉄生産にかかわる何らかの作業が行われていたものと考える。土塙1・2・9・21で検出した遺物も、こうした遺構と同時期である。

土塙18と土塙20では勝間田焼を検出した。時期は12世紀後半、平安時代末である。このほか、遺構とともになうこととは少なかったが、1区の包含層で勝間田焼を多数検出した。いずれも網目で判断はし難いが、それぞれが持つ特徴を観察する限り、遺構から出土したものと時期がそれほどかけ離れたものは無く、12世紀後半前後にわたるようだ。これらの勝間田焼のなかで、鉢161は外面に格子目のタケキリ痕が残り、内面には御目が僅かに観察できる。この時期の勝間田焼の鉢で、内面に御目を施す資料はごく希で(註)、包含層出土の細片資料ではあっても貴重な資料と言える。

このほかの包含層遺物のなかに、内面見込み部分に「吉」1字という刻印を施す龍泉窯系青磁103・104がある。104は低石に転用し、いずれの面も摩耗が著しい。

以上より、この周辺は弥生時代以後、現代まで断続的に居住域として利用され、古墳時代後期には鉄に関わる生産活動が行われていた可能性があることがわかった。

(註) 伊藤晃氏より教示を得た。

第1表 造構一覧表

獨立柱建物

造構名	地区	規 模	柱間距離	時 期
獨立柱建物1	1区	1~×2~	175~200	古墳時代後期

竪穴住居

造構名	地区	平面形	柱 六	周 長 (m)	床面積 (m ²)	底面海拔高 (m)	時 期
竪穴住居1	2区	方形				96.15	古墳時代後期
竪穴住居2	2区	方形	4 (内3斜壁認)	5 (推定)	23 (推定)	96.05	古墳時代後期

土壤

造構名	地区	平 面 形	長 軸 (cm)	短 軸 (cm)	深 広 (cm)	底面海拔高 (m)	時 期
竪穴住居2土壤	2区	橢円形	50	44	19	95.81	古墳時代後期
土壤1	1区	長楕円形	93	69	35	94.80	古墳時代後期
土壤2	1区	長楕円形	77	53	24	94.95	古墳時代後期
土壤3	1区	南北形	132	114	54	94.75	
土壤4	1区	不整長楕円形	110	51	11	95.20	
土壤5	1区	不整圓形	130	—	6	95.26	
土壤6	1区	長楕円形	52	33	5	95.40	
土壤7	1区	不整長楕円形	81	36	7	95.38	
土壤8	1区	不整圓形	77	25	6	95.37	
土壤9	1区	不整長楕円形	110	25	9	95.36	古墳時代後期
土壤10	1区	圓丸長方形	94	—	10	95.39	
土壤11	1区	不整圓形	61	—	10	95.41	
土壤12	2区	長楕円形	125	—	14	95.76	
土壤13	2区	円形	51	51	5	95.85	
土壤14	2区	長楕円形	74	53	5	95.86	
土壤15	2区	不整形	217	—	8	95.92	
土壤16	2区	小不整長楕円形	76	47	26	95.84	
土壤17	2区	不整長楕円形	198	84	14	96.24	
土壤18	2区	不整橢円形	174	137	32	96.12	平安時代
土壤19	3区	長楕円形	60	—	42	96.05	
土壤20	3区	不整形	195	—	18	96.43	平安時代
土壤21	4区	不整長楕円形	89	65	5	96.07	古墳時代後期
土壤22	4区	不整長楕円形	89	49	26	95.87	
土壤23	4区	不整形	84	—	48	95.68	
土壤24	5区	不整橢円形	75	65	13	94.83	
土壤25	5区	圓丸近方形	124	72	19	95.03	弥生時代中期
土壤26	5区	不整形	254	—	34	94.92	
土壤27	5区	不整長楕円形	251	—	20	94.92	
土壤28	5区	不整形	162	78	17	94.92	弥生時代中期

第2表 金属器観察表

番号	地区	造構名	土層	器種	計測値 (mm・g)			材質
					現存長	最大幅	最大厚	
M1	2区	竪穴住居2	鉢	鉢	51.6	5.5	4.4	6.31
M2	1区	包含層	鉢	鉢	137.3	6.3	5.6	18.37
M3	2区	包含層	鉢	鉢	61.6	4.2	4.2	5.52
M4	2区	包含層	鉢	鉢	29.0	5.6	4.2	2.18
M5	1区	包含層	鉢	鉢	54.0	50.0	4.2	4.48
M6	2区	包含層	鉢	鉢	5.9	4.3	4.0	2.03

第3表 土器観察表

番号	地区	遺物名	上層	種別	特徴	調査(回)			外	内	基
						白材	成形	風化			
1	1区	獨立建物1	P4	須志器	束	現存(25% 7/1)	現存(25% 7/1)	現存(25% 7/1)			
2	1区	獨立建物1	P4	須志器	束	現存(25% 7/2)	現存(25% 7/2)	現存(25% 7/2)			
3	2区	堅穴住居2	1層	須志器	杯蓋	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
4	2区	堅穴住居2	1層	須志器	杯身	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
5	2区	堅穴住居2	1・2層	須志器	杯蓋	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
6	2区	堅穴住居2	1・2層	須志器	杯蓋	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
7	2区	堅穴住居2	1層	須志器	杯身	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
8	2区	堅穴住居2	1層	須志器	杯	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
9	2区	堅穴住居2	1層	須志器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
10	2区	堅穴住居2	1層	須志器	高弧	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
11	2区	堅穴住居2	上層	須志器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
12	2区	堅穴住居2	上層	須志器	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
13	2区	堅穴住居2	上層	須志器	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
14	1区	土壁1	横山	須志器		現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
15	1区	土壁2	2層	須志器	杯蓋	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
16	1区	土壁2	2層	須志器	杯身	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
17	1区	土壁2	2層	須志器		現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
18	1区	土壁2	1層	須志器	高弧	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
19	1区	土壁2	1層	須志器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
20	1区	土壁9		須志器	高弧	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
21	1区	土壁9		須志器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
22	2区	土壁16	3層	須志器	杯	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
23	2区	土壁16	3層	須志器	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
24	2区	土壁18	1層	圓筒山	束	現存(5% 8/1)	現存(5% 8/1)	現存(5% 8/1)			
25	2区	土壁18	1層	圓筒山	束	現存(5% 8/1)	現存(5% 8/1)	現存(5% 8/1)			
26	2区	土壁18	1層	須志器	束	現存(5% 8/1)	現存(5% 8/1)	現存(5% 8/1)			
27	3区	土壁20		圓筒山	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
28	3区	土壁20	1層	圓筒山	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
29	3区	土壁20	1層	圓筒山	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
30	3区	土壁20	2層	圓筒山	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
31	3区	土壁20	2層	圓筒山	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
32	3区	土壁20	底面	圓筒山	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
33	3区	土壁20	1層	製品1	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
34	4区	土壁21		土製品	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
35	4区	土壁21		須志器	杯蓋	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
36	4区	土壁21		須志器	杯蓋	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
37	5区	土壁27		再生	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
38	5区	土壁27		再生	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
39	5区	土壁27		再生	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
40	5区	土壁28		再生	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
41	1区	P1		土師器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
42	1区	P1		土師器	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
43	1区	P1		須志器		現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
44	1区	P1		須志器	杯身	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
45	1区	P1		須志器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
46	3区	柱穴4		須志器		現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
47	5区	P15		再生	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
48	5区	P15		再生	裏	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
49	5区	P15		再生	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
50	5区	P21		再生	台付跡	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
51	5区	P12		再生	高弧	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
52	5区	P14		再生	高弧	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
53	5区	P16		再生	台付跡	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
54	5区	P20		須志器	杯身	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
55	5区	P24		須志器	杯身	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
56	5区	P22		土師器	束	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
57	5区	P18		瓦質	繩	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
58	5区	P20		瓦質	繩	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
59	5区	P19		瓦質	繩	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
60	5区	P17		須志器	杯	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
61	5区	P9		須志器		現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			
62	5区	P16		土師器	小皿	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)	現存(4% 7/2)			

番号	地区	地名	上層	中層	下層	土壤剖面 (cm)			色	質
						自然	成土	風化		
63	5区	P13	勝間山	表		褐(N 4/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
64	5区	P27	勝間山	小頭		褐(GV 7/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
65	5区	P25	勝間山	小頭		褐(GV 7/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
66	5区	P10	勝間山	小頭		褐(GV 6/3)(GV 3/4)	褐色(GV 5/3)(3/4)	褐色(GV 5/3)(GV 3/4)	褐色(GV 5/3)(GV 3/4)	褐色(GV 5/3)(GV 3/4)
67	5区	P23	丘質	鉢		褐(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
68	5区	P26	勝間山	勝跡		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 5/3)	褐色(GV 5/3)
69	1区	P2	須志山	杯蓋		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 5/3)	褐色(GV 5/3)
70	2区	P7	須志山	杯身		褐(GV 7/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
71	2区	P6	須志山	杯身		褐(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
72	2区	P6	勝間山	表		褐(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
73	1区	P4	勝間山	表		褐(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
74	3区	P8	勝間山	表	15.5	褐(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
75	2区	P6	勝間山	鉢	6.2	褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
76	1区	P4	勝間山	小頭	4.4	褐(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
77	1区	P4	勝間山	小頭	5.9	4.4	1.4	褐(N 7/ 3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
78	1区	P5	須志山	杯身	9.5			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
79	1区	P3	上部器	端	1.84	4.5-5.5(褐色)(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
80	1区	P3	上部器	裏	5.7	褐色(GV 5/3)(5/3)			褐色(GV 5/3)(5/3)	褐色(GV 5/3)(5/3)
81	1区	P4	上部器	湯		褐色(GV 6/3)(6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
82	2区	包含層	須志山	杯蓋	11.0	1.6	褐(GV 6/3)	褐(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
83	2区	包含層	須志山	杯身		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
84	2区	包含層	須志山	杯蓋		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
85	2区	包含層	須志山	杯身		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
86	3区	包含層	須志山	杯身		褐(N 5/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
87	1区	包含層	須志山	杯身		褐(N 5/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
88	3区	包含層	須志山	表		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
89	1区	包含層	須志山	表台		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
90	1区	包含層	須志山	表	11.3	褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
91	4区	包含層	須志山	表台		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
92	1区	包含層	須志山	杯蓋	17.2	2.8	1.8	褐(N 5/ 3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
93	1区	包含層	須志山	杯身	13.7	9.8	2.8	褐(N 5/ 3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
94	2区	包含層	須志山	杯身	9.5			褐(N 5/ 3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
95	1区	包含層	須志山	杯身	11.9			褐(N 6/ 3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
96	1区	包含層	須志山	杯	15.8	1.6	3.4	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
97	1区	包含層	十一郎山	杯	15.1	9.6	1.1	4.5-5.5(褐色)(GV 6/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
98	2区	包含層	須志山	盤		褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
99	3区	包含層	土師器	表		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
100	3区	包含層	土師器	裏		褐(N 6/ 3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
101	4区	包含層	土師器	裏		褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
102	1区	包含層	白磁	表		褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
103	2区	包含層	白磁	鉢		褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
104	2区	包含層	白磁	碗		褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
105	2区	包含層	白磁	盤		褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
106	1区	包含層	勝間山	裏		褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
107	1区	包含層	土作	枕	2.6	褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
108	2区	包含層	土作	枕	3.8	褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
109	3区	包含層	土作	枕	4.8	褐色(GV 7/3)			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
110	1区	包含層	勝間山	裏		褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
111	2区	包含層	勝間山	表		褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
112	1区	包含層	勝間山	裏		褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
113	1区	包含層	勝間山	表		褐色(GV 6/3)			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
114	1区	包含層	勝間山	表	12.3	6.6	1.5	4.5-5.5(褐色)(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
115	2区	包含層	勝間山	表	6.6			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
116	1区	包含層	勝間山	表	5.6			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
117	1区	包含層	勝間山	表	4.5			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
118	2区	包含層	勝間山	表	7.0			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
119	2区	包含層	勝間山	枕	5.5			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
120	2区	包含層	勝間山	枕	6.8			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
121	2区	包含層	勝間山	枕	5.4			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)
122	2区	包含層	勝間山	枕	6.1			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
123	2区	包含層	勝間山	枕	7.0			褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)	褐色(GV 7/3)
124	1区	包含層	勝間山	枕	5.6			褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)	褐色(GV 6/3)

第3章 調査の概要

番号	地区	造樹名	上層	種別	樹齢	調査(30)			外	内	基
						白材	黄材	緑材			
125	2区	包装材	勝岡山	楠	53	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
126	1区	包装材	勝岡山	楠	66	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
127	1区	包装材	勝岡山	楠	44	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
128	1区	包装材	勝岡山	楠	60	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
129	1区	包装材	勝岡山	楠	56	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
130	1区	包装材	勝岡山	楠	60	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
131	1区	包装材	勝岡山	楠	58	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
132	4区	包装材	勝岡山	楠	71	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
133	1区	包装材	勝岡山	楠	52	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
134	2区	包装材	勝岡山	楠	60	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
135	1区	包装材	勝岡山	楠	48	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
136	3区	包装材	勝岡山	楠	61	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
137	1区	包装材	勝岡山	楠	56	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
138	1区	包装材	勝岡山	楠	54	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
139	1区	包装材	勝岡山	楠	54	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
140	3区	包装材	勝岡山	楠	63	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
141	1区	包装材	勝岡山	楠	58	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
142	1区	包装材	勝岡山	小楓	78	57	14	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	
143	1区	包装材	勝岡山	小楓	72	46	13	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	
144	3区	包装材	勝岡山	小楓	81	58	13	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	
145	2区	包装材	勝岡山	小楓	48	44	14	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	無(G 6/ 3)	
146	1区	包装材	勝岡山	櫟	71	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
147	4区	包装材	勝岡山	楠	71	無(N 5/ 3)	無(N 5/ 3)	無(N 5/ 3)			
148	1区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
149	2区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
150	2区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
151	2区	包装材	勝岡山	楠	74	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
152	1区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
153	2区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
154	1区	包装材	勝岡山	楠	56	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
155	3区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
156	3区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
157	3区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
158	1区	包装材	勝岡山	楠	25	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
159	1区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)	無(N 7/ 3)			
160	1区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
161	1区	包装材	勝岡山	楠	70	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
162	1区	包装材	土製品	土糞	長793	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
163	5区	包装材	生牛	苔		無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
164	5区	包装材	生牛	苔	182	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
165	5区	包装材	生牛	東	175	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
166	5区	包装材	生牛	東	138	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
167	5区	包装材	生牛	東	153	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
168	5区	包装材	生牛	東	174	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
169	5区	包装材	生牛	柏台	123	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
170	5区	包装材	生牛	器		無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
171	5区	包装材	生牛	器		無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
172	5区	包装材	上耕園	高台付重	92	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
173	5区	包装材	上耕園	楠	97	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
174	5区	包装材	勝岡山	楠		無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
175	5区	包装材	勝岡山	楠		無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
176	5区	包装材	勝岡山	楠	60	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
177	5区	包装材	樹前	苔	54	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
178	5区	包装材	樹前	苔		無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)	無(N 6/ 3)			
179	5区	包装材	丸	丸瓦	217	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)			
					合計	217	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)		
						6685	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)	無(G 6/ 6)		

付載 上居遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤正己

概要

6世紀末から7世紀初頭が比定される上居遺跡（勝田郡勝央町）集落内より出土した鉄関連遺物（堅状鉄器、鉄塊系遺物、楕円鐵治溝、炉内滓：製鍊滓、炉壁）を調査して、次の点が明らかになった。

調査1区では、砂鉄系鉄素材を原料とした鉄塊系遺物や楕円鐵治溝が出土する。調査2区・5区からは鉱石系製鍊滓や炉壁が検出された。両者は包含層や土坑出土品であるが、周辺に製鐵や鍛冶構造の存在を示唆する。

1. 調査方法

2-1. 供試材 Table.1に示す。

2-2. 調査項目

- (1) 内眼観察
- (2) マクロ組織
- (3) 顕微鏡組織
- (4) ピッカース断面硬度
- (5) EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) 調査
- (6) 化学組成分析

2. 調査結果

(1) DOI-1 壊状鉄器

平面が不整合形態を呈する壊状鉄器刃部破片である。側面が二等辺三角形から両刃の可能性が高い。Photo.4にマクロ組織を示す。表層側は高炭素鋼、内部に極軟鋼を充當した鍛錬接合せ鍛えが想定される。鉄素材の繰返し折り曲げ鍛接線は明顯である。顕微鏡組織 Photo.1 の②より左側の黒色部は共析鋼 ($0.77\%C$) に近いパーライト域、内部は極軟鋼のフェライト (Ferrite : 純鉄) を示した。右側は拡散層でパーライトを少量含む。Photo.1の①はパーライト共析部の硬さ圧痕である。値は 240Hv で組織に対応する。Photo.5の1、2段目に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) と定量分析値を示す。1段目は鍛接線に派生した酸化防止の粘土由来の珪酸塩で、 $42.0\% \text{SiO}_3 - 7.3\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 1.5\% \text{CaO} - 2.4\% \text{MgO} - 2.8\% \text{K}_2\text{O}$ 組成であった。2段目は酸化第1鉄 (FeO) のウスタイト (Wustite : FeO) で $99.8\% \text{FeO}$ 組成が出ている。商品からは砂鉄特有成分のチタン (Ti) やバナジウム (V) が検出されず、鉱石系鉄素材が推定される。

(2) DOI-2 鉄塊系遺物

20g弱と小型で塊状の鉄塊系遺物である。表層は黄褐色の酸化土砂に覆われる。Photo.4の下段にマクロ組織を示す。内部は虫食い状に銹化するが一部に共析鋼 ($>0.77\%C$) を遺存する。Photo.1の③～⑦は顕微鏡組織である。③④は酸化土砂に取り込まれた鍛打作業で派生した粒状滓と鍛削片である。⑤は表皮スラグで鉱物相は白色針状結晶のイルミナイト ($\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$) が観察される。⑥⑦は遺存金属鉄の共析鋼である。黒色パーライト基地に初析セメントタイトを析出する。刃物の鍛削原料が想定される。⑦の硬度値は 342Hv と硬質である。Photo.5の4段目に表皮スラグの反射電子像と定量分析値を示す。

す。こちらは砂鉄特有成分が検出されアルチル（Rutile系： TiO_2 ）71.8% TiO_2 、21.1% FeO 組成が確認された。同じくPhoto.5の3段目は金属鉄中に存在する焼化鉄部分を示す。8の番号をつけた10 μm 平方での定量分析値は116% FeO （100%Fe）-20.1% P_2O_5 組成が検出された。当鉄塊は砂鉄原料の含焼成分が特徴である。ただし、焼は偏析部であって化学成的には高くはなかろう。

（3）DOI-3～5 梭形鍛治済

鍛治済の軸底に堆積形成された46.0～93.0 gの小型梭形部である。顕微鏡組織をPhoto.2の①～③に示す。鉱物組成は白色粒状結晶のウスタイト（Wüstite： FeO ）と淡灰色盤状結晶のファイヤライト（Fayalite：2 $FeO \cdot SiO_2$ ）を晶出する。白色粒状結晶の硬度値は482Hv～563Hvを測った。ウスタイトの文献硬度値は450～500Hvの範囲である。^[14]一部マグネタイトの存在があろうか。鉄素材の高温沸し鍛接で排出された品歎を呈す。3点の化学組成をTable.2に示す。鉄分（Total Fe）44～54%と高めで、ガラス質成分を28～30%台を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン（ TiO_2 ）を0.27～0.61%、酸化マンガン（ MnO ）0.11～0.25%台の含有は砂鉄系鉄素材の鍛鍊鍛治済の成分系である。なお、DOI-4梭形済は含鉄系で、鋳造鉄にパーライト斑跡を留めたマクロ組織を撮影してあるが、紙面の都合から割愛している。

（4）DOI-6、8、9、10 鉱石製鍛済

15～173 gと小型の緻密な淬である。DOI-6、9は明晰な流動模を呈する。顕微鏡組織をPhoto.2の④、Photo.3の①～⑦に示す。主要鉱物組成はいずれもファイヤライトにヘーシナイトを微量含む。DOI-8はウスタイトを少量析出し、DOI-9は未還元鉱石肩を残存させる。ファイヤライトの硬度値は602～7241 Hv、鉱石の硬度値は5791 Hvとそれぞれは文献硬度値の範囲にほぼ取まる。DOI-9鉱石製鍛済はEPMA調査を行った。Photo.5の5段目に反射電子像と定量分析結果を示す。鉱物相として磁化鉄（53.6% FeO -30.2%S）、含 Ti ヘーシナイト（18.9% Al_2O_3 -78.0% FeO -2.5% TiO_2 ）、ファイヤライト（70.5% FeO -31.4% SiO_2 ）など検出している。化学組成分析をTable.2に示す。鉄分は30%台と低めでガラス質成分が46～51%台と高めが特徴的である。DOI-6の高マンガン系（0.79% MnO ）と高銅系（0.03～0.06% Cu ）のDOI-9、10の2成分系に分けられる。原料鉄鉱石の产地の違いか、1つの鉱山の成分変動が興味を呼ぶ傾向である。

（5）DOI-7 炉壁片

平面が不定形状に破損した炉壁の小破片（5.8×5.6 cm、厚み1.9 cm）である。内面は被熱熔融から黒色ガラス化し、波打つ表面には茶褐色鉄錆を発する。裏面は強熱減量された胎土を薄く残す。この胎土中には微量の砂鉄やスサの混和がみられる。顕微鏡組織をPhoto.2の⑤に示す。鉱物組成は、粒上鉱物セリサイトが溶融ガラス化し、この中に白色不定形（多角形結晶へと変換中）の磁鐵鉱肩が点在する。マグネタイト結晶の堅くあり、製鐵わ礫に分類される。

3.まとめ

6世紀末～7世紀初頭の土居遺跡集落内では、鉱石製鍛（2・5区）から鉄器製作の沸し鍛接鍛冶作業（1区）を実証する鉄関連遺物が出土した。古墳時代から古代の手工業生産遺跡の可能性が指摘できる。今回調査した10点の調査試料の個々のまとめをTable.3に示す。なお、この勝央町方面では、製鉄原料に砂鉄と鉱石（磁鐵鉄）の両面操業の実施があったことは畠ノ平古墳群供獻鉄滓（1996・大澤）の報告で発言している。^[15]更には今年度報告の宮ノ上・天神遺跡出土品でも同様の結果が得られた。勝央町内は鉄生産の盛況ぶりが窺われる土地柄である。

三

- (1) 日刊工業新聞社「焼結鉱相試写真および識別法」1968

ウスタイトは450~500Hz、マグネタイトは500~600Hz、ファイアライトは600~700Hzの範囲が提示されている。また、ウルボスピニルの硬度範囲の明記がないが、マグネタイトにチタン(Ti)を回溶するので、600Hz以上であればウルボスピニルと同定している。それにアルミニナ(Al)が加わり、ウルボスピニルとヘーサナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため700Hzを超える値では、ウルボスピニルへハーサナイトの固溶体の「u」指数が表される。

- (2) 大澤正己「畠ノ平古墳群山十鉄塚の金網学的調査」(『西平古墳群、畠ノ平古墳群、虫山廻跡、馬十中世墓、茂木古墳、茂木城』(福島県文化財発掘調査報告11)) 指定形態整備公団、福島県教育委員会、1996。

Table.1 供試材の履歴と調査項目

当社	高さH	幅B	奥行D	壁面寸法	壁面形状	寸法			販賣面積					
						壁面A	壁面B	壁面C	柱面A	柱面B	柱面C	柱面D	柱面E	柱面F
DDI-1	180	114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	28×27×12	4.35	10.0	○	○	○	○	○	○
DDI-2		114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	26×30×11	3.90	10.0	○	○	○	○	○	○
DDI-3	140	114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	42×30×14	9.84	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-4		114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	27×30×13	4.90	10.0	○	○	○	○	○	○
DDI-5	140	114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	43×30×25	31.62	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-6		114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	31×30×21	17.00	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-7	140	114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	35×30×13	31.65	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-8		114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	31×25×20	14.00	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-9	140	114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	31×25×16	7.50	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-10		114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	31×20×15	23.00	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-11	140	114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	31×20×15	23.00	9.0	○	○	○	○	○	○
DDI-12		114	90	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	壁面A 壁面B 壁面C 壁面D 壁面E 壁面F 壁面G	31×20×15	23.00	9.0	○	○	○	○	○	○

Table 2 供試材の組成

Table 3 出土遺物の類別結果のまとめ

第1章 中国古典文学名著与现代文化 一、古典文学名著 1.1 《红楼梦》 1.2 《水浒传》 1.3 《三国演义》 1.4 《西游记》

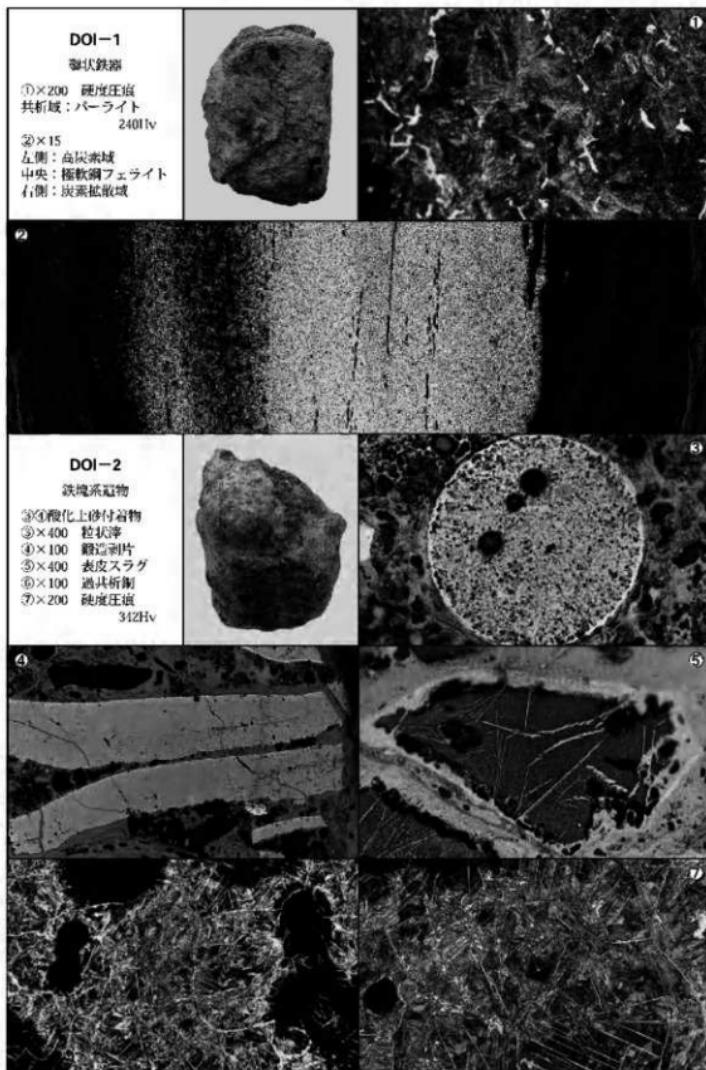


Photo.1 薄状鉄器と鉄塊系遺物の顕微鏡組織

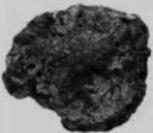
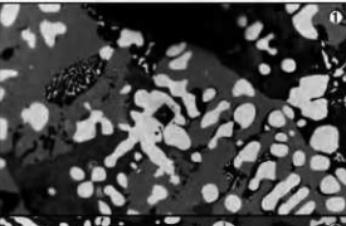
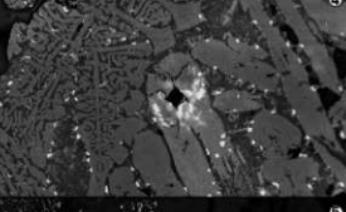
DOI-3 楕形鍛冶滓 ①×200 ウスタイト+ ファイヤライト 硬度Hv 563Hv:マグネットタイトか?		
DOI-4 楕形鍛冶滓 ②×200 ウスタイト+ ファイヤライト 硬度Hv 510Hv:ウスタイト		
DOI-5 楕形鍛冶滓 ③×200 ウスタイト+ ファイヤライト 硬度Hv 482Hv:ウスタイト		
DOI-6 鉱石製鍊滓 ④×200 ファイヤライト 硬度Hv 602Hv:ファイヤライト		
DOI-7 炉壁片 ⑤×100 磁鐵鉱由マグネット化		

Photo.2 楕形鍛冶滓、鉱石製鍊滓、炉壁片の顕微鏡組織

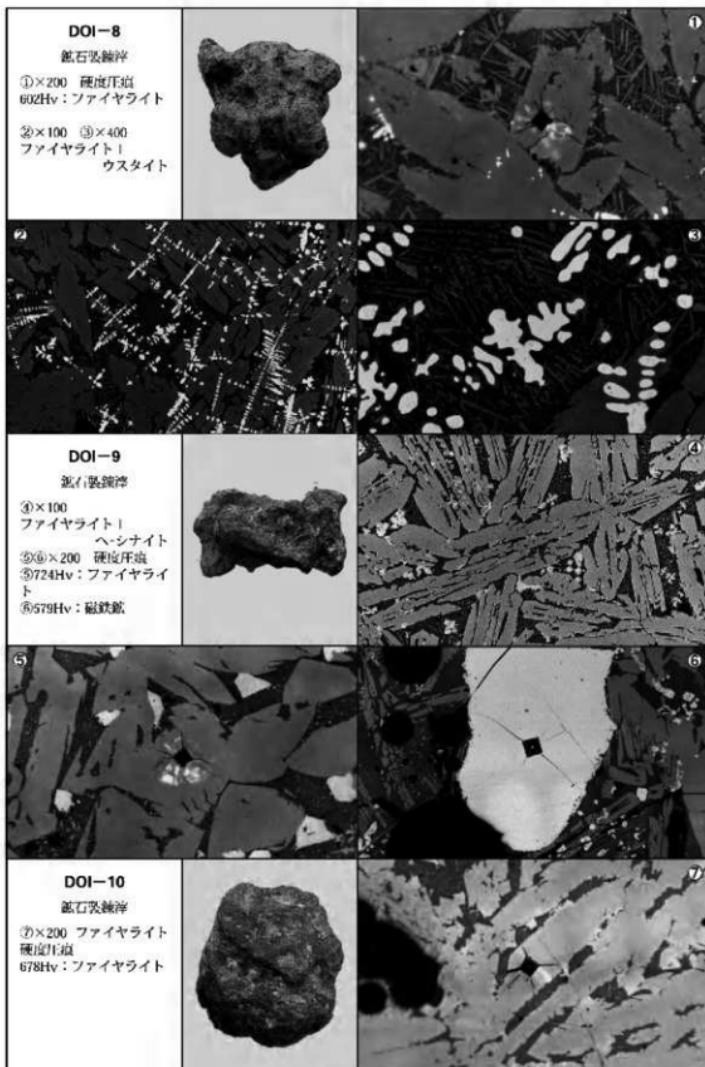
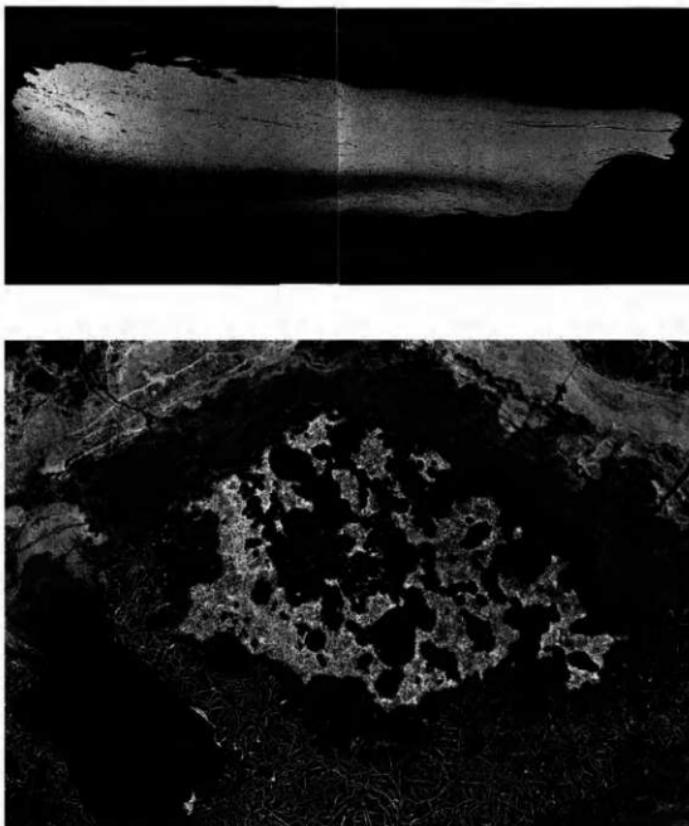


Photo.3 鉱石製鍊滓の顕微鏡組織



上段 DOT-1 薩状鐵器 ×10
下段 DOI-2 鉄塊系遺物 ×20

Photo.4 マクロ組織

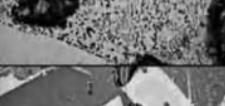
COMP ×1000		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th><th>1</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MgO</td><td>2.368</td></tr> <tr> <td>Al2O3</td><td>7.438</td></tr> <tr> <td>SiO2</td><td>41.988</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>0.382</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.088</td></tr> <tr> <td>S</td><td>2.787</td></tr> <tr> <td>CaO</td><td>15.019</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.472</td></tr> <tr> <td>MnO</td><td>0.863</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>27.908</td></tr> <tr> <td>ZrO2</td><td>0.061</td></tr> <tr> <td>V2O3</td><td>0.033</td></tr> <tr> <td>As2O3</td><td>0.033</td></tr> <tr> <td>Total</td><td>99.199</td></tr> </tbody> </table>	Element	1	MgO	2.368	Al2O3	7.438	SiO2	41.988	FeO	0.382	TiO2	0.088	S	2.787	CaO	15.019	TiO2	0.472	MnO	0.863	FeO	27.908	ZrO2	0.061	V2O3	0.033	As2O3	0.033	Total	99.199																																													
Element	1																																																																												
MgO	2.368																																																																												
Al2O3	7.438																																																																												
SiO2	41.988																																																																												
FeO	0.382																																																																												
TiO2	0.088																																																																												
S	2.787																																																																												
CaO	15.019																																																																												
TiO2	0.472																																																																												
MnO	0.863																																																																												
FeO	27.908																																																																												
ZrO2	0.061																																																																												
V2O3	0.033																																																																												
As2O3	0.033																																																																												
Total	99.199																																																																												
DOI-1①		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th><th>2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MgO</td><td>0.958</td></tr> <tr> <td>Al2O3</td><td>0.408</td></tr> <tr> <td>SiO2</td><td>0.093</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>—</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.004</td></tr> <tr> <td>S</td><td>0.004</td></tr> <tr> <td>K2O</td><td>—</td></tr> <tr> <td>CaO</td><td>—</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.128</td></tr> <tr> <td>MnO</td><td>0.003</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>99.822</td></tr> <tr> <td>ZrO2</td><td>0.038</td></tr> <tr> <td>V2O3</td><td>0.006</td></tr> <tr> <td>As2O3</td><td>0.009</td></tr> <tr> <td>Total</td><td>101.735</td></tr> </tbody> </table>	Element	2	MgO	0.958	Al2O3	0.408	SiO2	0.093	FeO	—	TiO2	0.004	S	0.004	K2O	—	CaO	—	TiO2	0.128	MnO	0.003	FeO	99.822	ZrO2	0.038	V2O3	0.006	As2O3	0.009	Total	101.735																																											
Element	2																																																																												
MgO	0.958																																																																												
Al2O3	0.408																																																																												
SiO2	0.093																																																																												
FeO	—																																																																												
TiO2	0.004																																																																												
S	0.004																																																																												
K2O	—																																																																												
CaO	—																																																																												
TiO2	0.128																																																																												
MnO	0.003																																																																												
FeO	99.822																																																																												
ZrO2	0.038																																																																												
V2O3	0.006																																																																												
As2O3	0.009																																																																												
Total	101.735																																																																												
COMP ×500		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th><th>2</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MgO</td><td>0.958</td></tr> <tr> <td>Al2O3</td><td>0.408</td></tr> <tr> <td>SiO2</td><td>0.093</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>—</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.004</td></tr> <tr> <td>S</td><td>0.004</td></tr> <tr> <td>K2O</td><td>—</td></tr> <tr> <td>CaO</td><td>—</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.128</td></tr> <tr> <td>MnO</td><td>0.003</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>99.822</td></tr> <tr> <td>ZrO2</td><td>0.038</td></tr> <tr> <td>V2O3</td><td>0.006</td></tr> <tr> <td>As2O3</td><td>0.009</td></tr> <tr> <td>Total</td><td>101.735</td></tr> </tbody> </table>	Element	2	MgO	0.958	Al2O3	0.408	SiO2	0.093	FeO	—	TiO2	0.004	S	0.004	K2O	—	CaO	—	TiO2	0.128	MnO	0.003	FeO	99.822	ZrO2	0.038	V2O3	0.006	As2O3	0.009	Total	101.735																																											
Element	2																																																																												
MgO	0.958																																																																												
Al2O3	0.408																																																																												
SiO2	0.093																																																																												
FeO	—																																																																												
TiO2	0.004																																																																												
S	0.004																																																																												
K2O	—																																																																												
CaO	—																																																																												
TiO2	0.128																																																																												
MnO	0.003																																																																												
FeO	99.822																																																																												
ZrO2	0.038																																																																												
V2O3	0.006																																																																												
As2O3	0.009																																																																												
Total	101.735																																																																												
DOI-1②		P																																																																											
COMP ×1000		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th><th>9</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MgO</td><td>—</td><td>0.955</td><td>2.414</td><td>2.443</td></tr> <tr> <td>Al2O3</td><td>—</td><td>13.949</td><td>0.272</td><td>1.670</td></tr> <tr> <td>SiO2</td><td>0.058</td><td>51.578</td><td>0.191</td><td>0.049</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>20.105</td><td>0.118</td><td>—</td><td>0.013</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.621</td><td>0.013</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>K2O</td><td>0.011</td><td>4.567</td><td>0.041</td><td>0.035</td></tr> <tr> <td>CaO</td><td>—</td><td>10.118</td><td>0.241</td><td>0.165</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>—</td><td>3.887</td><td>56.343</td><td>71.802</td></tr> <tr> <td>MnO</td><td>1.001</td><td>—</td><td>2.937</td><td>0.733</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>116.338</td><td>10.075</td><td>37.894</td><td>21.110</td></tr> <tr> <td>ZrO2</td><td>0.112</td><td>—</td><td>1.479</td><td>3.191</td></tr> <tr> <td>V2O3</td><td>—</td><td>0.072</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>As2O3</td><td>—</td><td>—</td><td>0.036</td><td>0.005</td></tr> <tr> <td>Total</td><td>137.114</td><td>99.425</td><td>101.995</td><td>100.923</td></tr> </tbody> </table>	Element	9	9	10	11	MgO	—	0.955	2.414	2.443	Al2O3	—	13.949	0.272	1.670	SiO2	0.058	51.578	0.191	0.049	FeO	20.105	0.118	—	0.013	TiO2	0.621	0.013	—	—	K2O	0.011	4.567	0.041	0.035	CaO	—	10.118	0.241	0.165	TiO2	—	3.887	56.343	71.802	MnO	1.001	—	2.937	0.733	FeO	116.338	10.075	37.894	21.110	ZrO2	0.112	—	1.479	3.191	V2O3	—	0.072	—	—	As2O3	—	—	0.036	0.005	Total	137.114	99.425	101.995	100.923
Element	9	9	10	11																																																																									
MgO	—	0.955	2.414	2.443																																																																									
Al2O3	—	13.949	0.272	1.670																																																																									
SiO2	0.058	51.578	0.191	0.049																																																																									
FeO	20.105	0.118	—	0.013																																																																									
TiO2	0.621	0.013	—	—																																																																									
K2O	0.011	4.567	0.041	0.035																																																																									
CaO	—	10.118	0.241	0.165																																																																									
TiO2	—	3.887	56.343	71.802																																																																									
MnO	1.001	—	2.937	0.733																																																																									
FeO	116.338	10.075	37.894	21.110																																																																									
ZrO2	0.112	—	1.479	3.191																																																																									
V2O3	—	0.072	—	—																																																																									
As2O3	—	—	0.036	0.005																																																																									
Total	137.114	99.425	101.995	100.923																																																																									
DOI-2③																																																																													
COMP ×1000		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Element</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MgO</td><td>0.002</td><td>0.363</td><td>2.282</td><td>—</td></tr> <tr> <td>Al2O3</td><td>0.261</td><td>18.938</td><td>1.118</td><td>18.308</td></tr> <tr> <td>SiO2</td><td>0.002</td><td>0.008</td><td>31.380</td><td>43.877</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>0.002</td><td>0.009</td><td>—</td><td>0.417</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>30.172</td><td>0.007</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>K2O</td><td>0.189</td><td>0.011</td><td>0.015</td><td>4.816</td></tr> <tr> <td>CaO</td><td>0.358</td><td>—</td><td>0.325</td><td>8.064</td></tr> <tr> <td>TiO2</td><td>0.023</td><td>2.480</td><td>0.011</td><td>0.347</td></tr> <tr> <td>MnO</td><td>0.015</td><td>0.047</td><td>0.733</td><td>—</td></tr> <tr> <td>FeO</td><td>53.634</td><td>78.091</td><td>70.469</td><td>19.790</td></tr> <tr> <td>ZrO2</td><td>—</td><td>0.072</td><td>—</td><td>0.035</td></tr> <tr> <td>V2O3</td><td>—</td><td>0.005</td><td>0.032</td><td>—</td></tr> <tr> <td>As2O3</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>Total</td><td>77.995</td><td>100.795</td><td>104.956</td><td>102.016</td></tr> </tbody> </table>	Element	12	13	14	15	MgO	0.002	0.363	2.282	—	Al2O3	0.261	18.938	1.118	18.308	SiO2	0.002	0.008	31.380	43.877	FeO	0.002	0.009	—	0.417	TiO2	30.172	0.007	—	—	K2O	0.189	0.011	0.015	4.816	CaO	0.358	—	0.325	8.064	TiO2	0.023	2.480	0.011	0.347	MnO	0.015	0.047	0.733	—	FeO	53.634	78.091	70.469	19.790	ZrO2	—	0.072	—	0.035	V2O3	—	0.005	0.032	—	As2O3	—	—	—	—	Total	77.995	100.795	104.956	102.016
Element	12	13	14	15																																																																									
MgO	0.002	0.363	2.282	—																																																																									
Al2O3	0.261	18.938	1.118	18.308																																																																									
SiO2	0.002	0.008	31.380	43.877																																																																									
FeO	0.002	0.009	—	0.417																																																																									
TiO2	30.172	0.007	—	—																																																																									
K2O	0.189	0.011	0.015	4.816																																																																									
CaO	0.358	—	0.325	8.064																																																																									
TiO2	0.023	2.480	0.011	0.347																																																																									
MnO	0.015	0.047	0.733	—																																																																									
FeO	53.634	78.091	70.469	19.790																																																																									
ZrO2	—	0.072	—	0.035																																																																									
V2O3	—	0.005	0.032	—																																																																									
As2O3	—	—	—	—																																																																									
Total	77.995	100.795	104.956	102.016																																																																									
DOI-9																																																																													

Photo.5 EPMA 調査結果



調査区全景（西から）

図版 2



1 1区（北西から）



2 据立柱建物 1（東から）



3 土壌 2（北西から）



4 P 1（東から）



1 2区東半（北西から）

2 壁穴住居 1（南東から）



3 壁穴住居 2（北西から）

図版 4



1 3区（北西から）



2 4区（北西から）



3 柱穴列4（南東から）



4 土壌22・23（東から）

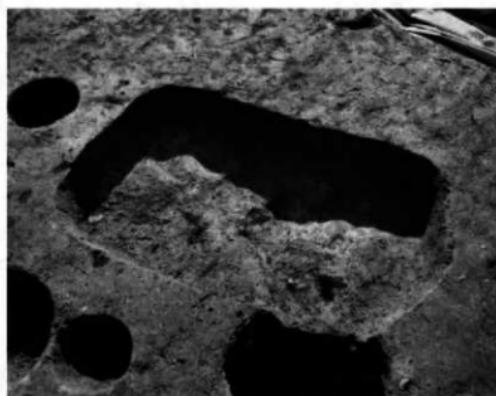
図版 5



1 5区（北西から）

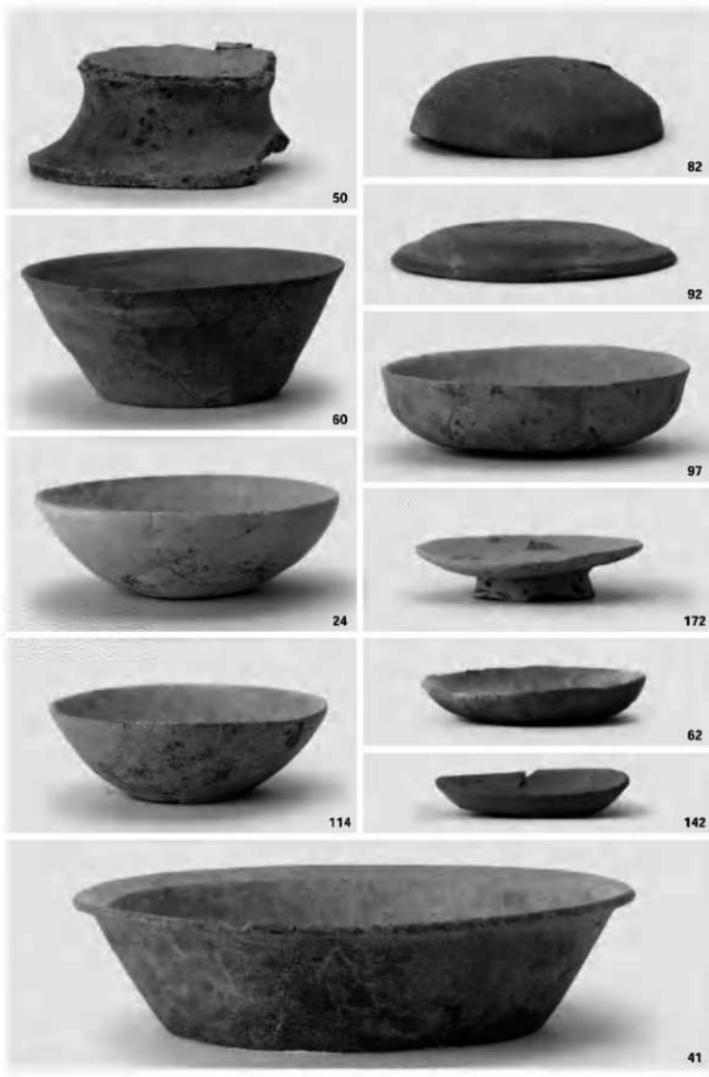


2 5区 ピット（東から）

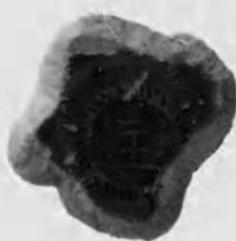
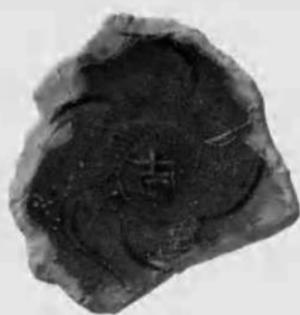


3 土壌25（北西から）

图版 6



出土遺物 ①



103



104



42

出土遺物 ②

図版 8



出土遺物 ③

報告書抄録

ふりがな	どいいせき						
書名	土居遺跡						
副書名	一般国道179号公共交通安全施設整備に伴う発掘調査						
巻次							
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	195						
編著者名	重根 弘和						
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター						
所在地	〒701-0136 岡山県岡山市西花尻 1325-3 TEL 086-293-3211						
発行機関	岡山県教育委員会						
所在地	〒700-8570 岡山県岡山市内山下 2-4-6 TEL 086-224-2111						
発行年月日	西暦2005年11月30日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所取遺跡名	コード 市町村	北緯 経度番号	東経 度	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
上居遺跡	岡山県 勝田郡 勝央町馬上	33622	336220744	35° 01' 44" 07' 49"	134° 07' 49" 2004. 10. 1 ~ 2004. 12. 31	800	一般国道 179号公共 交通安全 施設整備
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
土居遺跡	集落	弥生時代～中世	壁穴住居 1、掘立柱建物 1 上塀 28、柱穴列 4	弥生土器、土師器、 須恵器、腰廻田燒、 陶磁器、土鍬、鉄器			

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 195

土居遺跡

一般国道179号公共交通安全施設整備に伴う発掘調査

平成17年11月15日 白刷

平成17年11月30日 発行

編集 岡山県古代古墳文化財センター

岡山県岡山市西花尻1325-3

発行 岡山県教育委員会

岡山県岡山市内山下2-4-6

印刷 西尾総合印刷株式会社

岡山県岡山市津高651

